

ニ対シ、漁業、沿岸貿易即チ其ノ領域内ノ一港ニ於テ積載シタル貨物及旅客ヲ同一領域内ノ他ノ一港ニ海上輸送ヲ為スコト並港灣役務即チ曳船、水先案内及一切ノ港内役務ヲ自国船舶ニ留保スルノ權利ヲ保有ス

第十條

一方ニ於テ土耳其国他方ニ於テ他ノ各締約国ハ漁業、沿岸貿易及港灣役務ニ関スル前条ニ定ムル例外ヲ留保シ各種貨物ヲ輸出入シ又ハ出入旅客ヲ輸送スルノ權利並港、船渠、埠頭及港外碇泊所ニ於ケル繫留及積卸ニ対スル一切ノ便益享受ニ関シ相互条件ノ下ニ内国船舶ニ与フルト均等ノ待遇ヲ許与スヘシ

政府、官公吏、私人、団体若ハ各種營造物ノ名義ヲ以テ又

ハ其ノ利益ノ為ニ課セラルル衛生税、港税、埠頭税、碇泊税、水先案内料、檢疫税、燈台税及其ノ他類似ノ税金トシテ船舶ニ賦課セラルル各種ノ料金、負担及支払ニ関シテモ同一ノ相互条件ノ下ニ亦絶対ノ均等待遇ヲ許与スヘシ

輸入又ハ輸出ノ貨物ニ賦課スヘキ料金及税金ハ第一款ノ規定ニ依リ其ノ生産地及輸出地又ハ其ノ荷受地ニ依リテノミ決定セラレ且他ノ一切ノ締約国ニ対シ均シク適用セラルヘキモノナルヲ以テ土耳其国ハ相互条件ノ下ニ輸入又ハ輸出ノ貨物ニ対シ輸出入船舶ノ国籍、發著港、航路又ハ寄港地ニ基キ何等ノ差別的料金、付加税又ハ増加税ヲ其ノ性質又ハ名称ノ如何ヲ問ハス賦課セサルコトヲ約ス

事項二 欧州復興及ビ対独賠償問題

四九 一月二日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議ニ提出セントスル仏国案ノ大要

報告ノ件

第一号

(一月三日接受)

新聞情報ヲ綜合スルニ一月二日巴里首相會議ニ対スル仏国案ノ大要左ノ如シ

一、独逸債務ノ減額ハ仏国ノ對連合國債務ノ減額ヲ条件トスルモノニシテ即チ「c」証券ト之ト略ボ同額ナル連合國間債務ノ相殺ニ依リ「c」証券ニ相等スル額ヲ独逸債務ヨリ減ズル事ニ同意ス可シ若シ右ノ相殺不可能ナルニ於テハ仏国ハ連合國ニ対スル債務ノ利子ヲ支払フ可キモ之ハ仏国ガ独逸ヨリ荒廢地復旧ノタメ必要ナル額即チ仏国ガ「a」及「b」証券ニ対シ受取ル可キ利子ト略ボ同額即チ百億金馬克ヲ受取ル可キ事ヲ条件トス

二、仏国ハ二ヶ年ノ支払猶予ヲ独逸ニ許ス可シ但同猶予ハ占領軍ノ費用及実物支払ニ適用セラレザル可ク単ニ現金支払ノミニ関スルモノトス

二 欧州復興及ビ対独賠償問題 四九

三、保障委員會ヲ伯林ニ移シ之ヲシテ独逸財政並「ライヒスバンク」ニ対スル監督ヲ勵行セシメ必要ノ場合ニハ独逸債券所有者ノ代表者ヲシテ同委員會ニ助力セシム可シ尚独逸ヲシテ馬克安定ノ方策ヲ講ゼシメ之ヲ賠償委員會ノ審議ニ付セシム可シ

四、担保取得ニ関シテハ「a」賠償委員會ノ決定セル木材引(脱)確保スル為「ライン」占領地域ニ於ケル国有森林ノ exploitation ヲ為ス事「b」「ルール」地方ノ或ル地点ニ於テ石炭ノ引渡ヲ監督セシム可キ連合國委員會ヲ設定スル事「c」「ライン」地方及「ルール」地方ノ税関收入ヲ連合國ガ直接徴収スル事右ハ新タニ関稅ヲ設クルモノニ非ズシテ現ニ「ライン」地域ノ東境並「ルール」河ノ出口ノ諸地点ニ存在スル税関ニ連合國税関吏ヲ配置シ直接関稅徴収ヲ為サシムルモノナリ「d」「ライン」地方及「ルール」地方ニ於テ石炭税ヲ徴収スル為連合國委員會ヲ設クル事右石炭税ハ一年約四億金馬克ニ上ル可ク同委員ハ独逸ヲシテ右金額ノ約四分ノ一ヲ外國通貨ヲ以テ支払ハシムルノ權限

ヲ有ス可シ「e」一九二一年五月倫敦協定以來独逸輸出額ニ対シ二十六「パーセント」税ヲ外国貨ヲ以テ徴収セシメ居タル処今後「ライン」地方及「ルール」地方ノ輸出ニ対スル同課税ニ就テハ連合国「ライン」地方委員会ノ決定ス可キ割合ヲ以テ連合国直接之ヲ徴収ス可ク右徴収ヲ有効ナラシムル為独逸輸出者ニ対シ所要ノ外国貨ヲ納付スルニ非ザレバ輸出許可書ヲ与ヘザル事トスル事

尤モ右第四ニ関シテハ何等軍事占領ヲ意味セズ単ニ文官ヲ派遣スルニ過ギズ

五、独逸外債募集ニ関シテハ「モラトリウム」ノ満期前之ガ考究ヲ為スヲ可トス可キモ同外債募集ノ第一要件ハ独逸ガ保障委員会及独逸債券所有者ノ代表者ノ監督ニ依リ確実ナル保障ヲ具備スルニ在リ

在欧各大使及「ローザンヌ」ヘ転電セリ

五〇 一月三日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独国政府ノパリ賠償會議ニ提出セントスル提案ノ大要報告ノ件

第二号 (一月四日接受)

非常ノ苦境ニアリト謂フ
英仏米及旁山ヘ転電セリ

五一 一月三日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議第一回會議開催ノ件
第二号 (一月四日接受)

賠償問題首相會議ハ二日外務省ニ於テ開催セラレタルガ出席者ハ仏国側「ポアンカレ」蔵相「ラストイリー」及稅務局長英國側「ボナ・ロー」商務大臣「グリーンム」外務次官「クロウ」伊国側駐英大使及駐仏大使白国側「チュニス」及「ジャスパー」ニシテ専門委員ハ別室ニ控ヘ會議ニ参加セズ「ポアンカレ」議長席ニ着キ独逸実物賠償不履行ニ関シ英仏首相間ニ意見ノ交換アリタル後仏国首相仏国側提案ヲ説明シ続イテ伊国側並英國側提案ノ説明アリ右三提案ハ別電ノ通りニシテ即時之ヲ新聞ニ公表スル事及三日午後更ニ會議ヲ繼續ス可キ事ヲ決議シタル而已ニテ四時半散會シタルガ英仏提案余リニ懸隔アリタルヲ以テ同日ハ何等討議ニ入ルヲ得ズ仏国政府ハ三日午前閣議ノ上同日午後ノ會議ニ於テ仏国案ヲ討議ノ基礎ト為ス事ヲ主張ス可シト

本使ノ探聞スル所左ノ通

今般独逸政府ノ巴里ニ提出スヘキ提案ノ基礎条件ハ大要

(一)四ヶ年ノ「モラトリウム」

(二)右「モラトリウム」許容セラルル場合ニハ直ニ二百億金貨麻ノ外債ヲ起シ其内五十億ヲ右ニ対スル利子支払基金トシテ取除ケ残額全部ヲ賠償ニ充ツルコト

(三)一九二七年ニ至リ市場ノ状況ニシテ許ス場合ニハ又五十億ノ内債又ハ外債ヲ募リ賠償ニ充ツルコト

(四)一九三一年ニ至リ同ク市場ノ状況ニ応シ更ニ五十億ノ公債ヲ起シ賠償ニ充ツルコト

(五)代償トシテ独逸ハ占領軍ノ撤退又ハ大削減及内外ニ於ケル商工業ノ自由ヲ要求スルコト

ト謂フニアリ尚ホ叙上公債ニ付テハ何等担保ノ指名ナキ処右ハ初メ当国工業界ニ於テ政府ノ懇請ニ拘ハラスレカ提供ヲ拒絶シタリ之ニ対シ外相ハ此上ハ政府ノ威力ヲ以テシテモ之ヲ実行スヘシト迄極言シタルニ「スチンネス」ハ然ラハ政府ニ於テ勝手ニ之ヲ試ミラルヘシト極言セル事情アリ今ヤ政府ハ從來一般ニ予期セラレタルカ如ク実業界ノ後援モナク又政黨ノ後援モナク甚タ心許ナキ有様ナレハ現下

報ゼラル

在欧米各大使及「ローザンヌ」ヘ転電セリ

五二 一月三日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議仏国側提案中ノ制裁条項報告ノ件

第三号 (一月四日接受)

仏国側提案ハ大要往電第一号ト同一ニシテ尚左ノ如キ制裁条項ヲ存ス

仏国ハ目下新ナル軍事占領ヲ行フノ意志無キモ独逸カ吾人ノ提案ヲ履行セサル場合ニハ之カ制裁トシテ直チニ一、「エッセン」及「ポツム」地方並「フオッシュ」元帥ノ立案ニ係ル「ルール」谿谷ノ一帯ニ互リ軍事占領ヲ行ヒ且

二、占領地域全部ノ東方ニ関稅地帯ヲ設置スヘク連合國政府ハ共同又ハ単独ニ此ノ制裁ヲ行フニ異議ナキコトヲ約スヘシ云々

尚仏国提案ニハ石炭木材ノ引渡輸出税ノ徴収等ニ依リ担保取得ヲ十億万金馬克ト計算セリ

在欧米各大使、労山へ転電セリ

五三 一月三日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏国政府閣議ニ於テ賠償ニ関スル英國提案ヲ

審議ノ件

第四号

(一月四日接受)

往電第二号ニ関シ

仏国政府ハ一月三日朝閣議ニ於テ英國提案ヲ審議シタル結果満場一致ヲ以テ右英國提案ハ仏国債権ニ対シ著シキ減額ヲ加フルト共ニ更ニ支払延期ヲ認め而シテ何等ノ担保ヲ認メザルモノナルコト及同提案ハ「ヴェルサイユ」条約ノ主要条項ヲ結局放棄スルモノト認ムルコトニ決定セル旨「ハーヴァス」通信ニ依リ発表セラル
在欧米各大使へ転電セリ

五四 一月三日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル伊国政府ノ提案ニツキ報告ノ件

第五号 別電

(一月四日接受)

伊国側提案ハ客年十二月伊国首相カ倫敦會議ニ提出セル覺

(ハ)国有森林ノ exploitation ヲナスコト

(ニ)「ルール」地方ニ於ケル国有炭坑生産管理

尚往電第三号冒頭ニ「別電」ヲ加フ

在欧米各大使「ロザン」へ転電セリ

編註 日本外交文書大正十一年第三冊一三〇文書参照

五五 一月三日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル英國提案ノ要領報告ノ件

第六号

(一月四日接受)

英國提案ノ要領左ノ如シ

一、從來ノ a、b、c ノ三種ノ債券ヲ廢シ之ニ代フルニ二種ノ債券ヲ以テス

第一種債券ハ額面総額五百億金馬克支払期限ヲ三十二年後トス、直ニ之ヲ発行シ利子ハ年五分、但最初ノ四ケ年ハ利子ヲ全ク猶予シ次ノ四ケ年ハ一分ヲ猶予シテ年四分トス

第二種債券ハ額面総額ヲ百七十三億一千万金馬克(第一種債券ニ付猶予セル利子ノ一九三三年四月一日ニ於ケル見積額)或ハ其ノ額以下ニ於テ(ニ)ノ仲裁裁判所ノ決定スル額ト

(編註) 書(伊発本省宛電報第一二八号参照)ト大体同一ナルニ付異ナル点ノミ大要左ノ通

一、前記電報中 c 証券決済方法 (e) ヲ左ノ通変更仏伊其他ノ賠償權利国カ戰時中又ハ戰爭ノ為メ英國ト締結シタル債務ニシテ英國カ仕仏ヲ要求セサルコトニ同意セル金額ニ均シキ額ヲ c 証券ヨリ控除スルコト

残額ニ関シテハ対米債務ノ仕仏ヲ米國ヨリ連合國ノ一国ニ要求スル迄ハ右連合國ハ残額ノ仕仏ヲ債務國ニ要求スルコトナカルヘシ

二、前記電報中ノ提案四ヲ左ノ通変更ス
独逸ハ成ルヘク速ニ三十億金貨馬克以上ノ借款ヲ起シ其一部ヲ馬克相場ノ安定ニ用ユヘク殘部ハ「モラトリアム」ノ期間内ニ賠償權利國ニシテ独逸賠償総額ヲ減額シタル國ニ分配スヘシ

独逸政府ハ右借款ノ発行ニ付独逸銀行及産業会社ノ保証ヲ取付クルコトヲ約ス

三、担保取得

(イ)輸出入許可証ニ関シ連合國ノ監視方法ヲ維持スルコト
(ロ)「ライン」地方ノ税関管理

シ一九三三年四月一日之ヲ発行ス、其ノ期限ハ三十二年後ニシテ利率ハ年五分

二、(一)ノ債券ノ利子ニ當ツル為独逸ハ次ノ年金ヲ支払フ

a、最初ノ四ケ年ハ全然支払ヲ猶予セラル(但実物弁済ノ一部ハ之ヲ繼續セシム仏ノ骸炭伊ノ石炭等ノ如キ)

b、次ノ四ケ年毎年二十億金馬克

c、次ノ二ケ年毎年二十五億金馬克

d、其ノ後ハ二十五億乃至三十五億ノ範圍内ニテ仲裁裁判所ノ決定スル額(一ノ末尾参照)

最初ノ四年ノ支払猶予期間ト雖(六)ノ b ニ記載スル監督機關ガ独逸ニ支払能力アリト認メタル時ハ年額二十億ヲ超エザル範圍内ニテ之ヲ開始セシムルコトヲ得、但右ハ一九二五年以後ナラザルベカラズ

三、一九三三年四月一日以前ニ於テ独逸ガ第二種債券ノ利子ヲ支払ヒ得ザルコトヲ仲裁裁判所ニ立証スル時ハ仲裁裁判所ハ第二種債券ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得

右仲裁裁判所ハ賠償委員會代表者一人、独逸政府ノ任命スル者一人及両者ノ指定スル(両者間ニ協定ヲ欠ク時ハ米國大統領之ヲ指名ス)(脱)ヲ以テ組織ス

四、独逸ハ第一種債券ヲ本年ノ六月三十日以後何時ニテモ買戻スコトヲ得、第二種債券モ第一種債券ノ買戻後何時ニテモ買戻スコトヲ得、而シテ伊国^(英)ノ意見ニ拠レバ其ノ買戻ノ条件ハ頗ル有利ナルヲ以テ買戻ニ依テ払込ヲ免カルル利子ニ依リ優ニ買戻ノ為ニ起ス公債ノ元本並利子ノ償却ニ当ツルヲ得ベシト云フ

五、第一種債権ノ八割ハ「スパー」協定ニ依リ各国ニ分配シ二割ハ賠償委員会ニ保管シテ対白連合國債権占領軍費用其他条約上ノ各種費用ニ充テ残部ハ「スパー」協定ニ依リ分配ス

六、以上ノ仕私猶予案ノ条件トシテ

a、独逸ハ一定ノ期限内ニ馬克ノ安定及予算ノ均衡ヲ実現スルコト
b、連合側ノ財政監督ヲ承認スルコト右監督ノ為メ伯林ニ財政監督委員会ヲ作り英仏伊白米及欧州中立國ノ一ヨリ委員ヲ出ス而シテ其権限ハ之ヲ広クシ現在ノ賠償委員会ハ之ヲ保存スルモ単ニ一ノ裁判の機關トナス
c、aノ条件ヲ独逸力履行セサル場合ニ於テハ独逸収入ノ強制管理、独逸財政機關ノ転換、軍事占領等ノ制裁手段ヲ

執ルヘシ

七、独逸力債権買戻ノ為メ起ス外債ハ之ニ応シタル國ノ持分タル債権ノ買戻ニ充ツルヲ原則トス但英國ハ一九二七年一月一日以前ニ独逸力英國市場ニ起債シタル額ノ半ヲ仏國債権ノ買戻ニ充ツルコトヲ承認ス

尚連合國債務ニ関スル英國案左ノ如シ

一、現ニ英國力其對連合國債権ノ保証トシテ保有スル金ヲ右債権消却ニ充ツ

二、第一種債権中仏國力其對白債権ノ弁済トシテ受クルモノ及伊太利ノ持分中十五億ヲ英國ニ譲渡ス

三、第二種債権ノ利子ハ全部之ヲ對米連合國債務償還資金トシ其對米債務額ニ從テ之ヲ分配ス

右以外ニハ英國ハ其對連合國債権ヲ全部放棄ス但連合國債務ニ関スル本案ハ賠償仕私案ノ承認保証制裁ニ関スル總テノ提案ノ撤回ヲ条件トス

在欧米各大使「ロザン」ヘ転電セリ

五六 一月四日 在仏國奧山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議第二回會議ノ経緯報告ノ件

別電一 一月四日在仏國奧山臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第九号

パリ賠償會議ニ於ケル仏國首相ノ英國提案反駁ノ要領報告ノ件
二月四日在仏國奧山臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第一〇号

パリ賠償會議ニ於ケル白國首相演說要旨報告ノ件
三月五日在仏國奧山臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第一二号

パリ賠償會議ニ於ケル英國首相陳述ノ要旨報告ノ件

第八号 (一月五日接受)

巴里首相會議ハ一月三日午後三時第二回會議ヲ開催シ英國案ニ對スル仏白兩首相ノ反駁アリ其間英國首相ノ弁明アリタルカ白國首相ノ仏國案支持ニ拘ラス英仏意見ハ根本ニ於テ到底相容レサルモノアルヲ示シ結果四日ノ會議ニ於テ英國及伊國側主張ノ詳細ナル説明アルコトシテ午後七時半散會セル趣ナリ右會議ノ詳細ハ別電ノ如クナルカ賠償委員會員カ外務省側ヨリ得タル情報ニ依レハ英仏ノ意見ハ全然相反スルヲ以テ四日ノ會合ニテハ英伊兩國首相ノ説明アル

ヘキモ之レ單ニ形式ニ止マリ到底英仏意見ノ一致ヲ見ルコト難カルヘク白國ハ仏國側ノ意見ヲ支持スヘク又伊國側ハ三日ノ會議ニ於テモ常ニ英國首相ノ顔色ヲ窺ヒ居タル有様ニテ未タ英仏意見ニ對スル意見ヲ表明セサルモ一方英國案ニ賛成シ難シトスルモ去レハトテ仏國案ヲ支持スルノ勇氣ナク左眊右顧ノ態ニシテ右會議後モ英國首相ト會見セル趣ナルヲ以テ或ハ上部「シレジア」問題當時ノ如ク本問題ヲ或ル中間機關例ヘハ國際連盟ノ如キモノニ付託セシムルノ案ヲ懲慝スルニ至ルヤモ計ラレサルモ賠償問題ノ如キ重大問題ヲ第三者ノ決定ニ委スルカ如キハ仏白兩國ノ到底承諾スルヲ得サル所ナルヘク又若シ英國力賠償問題ニ付前記ノ態度ヲ改メサルニ於テハ仏國モ亦「ロザン」會議ノ難問題タル「モッスール」ニ関シ英國ノ立場ヲ支持セス之ヲ英土間ノ葛藤ニ委シ結局仏國ハ独逸ニ對シ單獨行動ヲ執ルニ至ルヘントノ觀測ナリト云フ尚独逸ハ過日來「ベルグマン」ヲシテ巴里首相會議ニ對シ独逸ノ主張ヲ説明セムコトヲ要求シ居タル所三日ノ會議ニ於テ「ポアンカレ」ヨリ單ニ右要求アリタル旨ノ報告アリタルノミニテ本件ニ関シテハ何等討議ニ入ラサリシ趣ナリ御參考迄

在欧米各大使、「ロザン」へ転電セリ

(別電一)

一月四日在仏国奥山臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第九

号

パリ賠償會議ニ於ケル仏国首相ノ英国提案反駁ノ要領報告ノ件

第九号(別電一)

(一月五日接受)

一月三日首相會議第二回會議ニ於テ「ポアンカレ」ハ二時間ニ亘リ英国提案ニ対シ逐一反駁ヲ試ミタリ、要領左ノ如シ

英国案ハ全体ニ於テ平和条約ノ更改ニシテ同条約中ノ当該諸条項ヲ破棄スルモノナリ同案ハ又千九百二十一年五月連合國ガ「ヴェルサイユ」条約ニ基キテ決定セル諸計畫ヲ變更シ連合國ニノミ屬セル總額決定權ノ一部ヲ賠償委員會並ニ独逸政府ノ代表者各一人及ビ第三者ヨリ成ル仲裁裁判所ニ与ヘ、加之賠償委員會ノ權限ヲ奪ヒテ新ニ組織スル財政監督委員會ニ移シ、又条約ニ規定スル実物給付ニ制限ヲ加フル等種々ノ点ニ於テ「ヴェルサイユ」条約ヲ破ルモノナリ併シ同条約ハ永久的性質ヲ有シ之レニ變更ヲ加ヘントスルガ如キハ本會議ノ寸毫モ其權利ヲ有セサル処トス

且又白國ノ優先權ハ從來最モ之レヲ尊重セシ所ナルニ英国案ガ之レヲ突如無視セントスルハ不当ナリ

更ニ連合國債務ニツキテ論ズルニ英国ハ仏國ノ戰爭中提供セル十四億金馬克ノ金ヲ没収スルノミナラズ仏國ノ受領スベキ第一種債券ヨリ(脱)金馬克ヲ要求セントス而シテ其ノ結果仏ハ其ノ直接米國ニ對スル負債百四十億金馬克ヲ余スノミナラズ荒廢地復旧等ノ為メニスル支出ハ之レヨリ賠償トシテ得ル百十億ヲ差引クモ五百九十億ニ上ル斯クテ合計七百三十億金馬克ヲ負担スルニ反シ英国ノ此種ノ負担ハ四百五十五億仏ノ約六割二分ニ過ギザルベシ云々

在欧米各大使及ロザンヌニ転電セリ

(別電二)

一月四日在仏国奥山臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第一

〇号

パリ賠償會議ニ於ケル白國首相演說要旨報告ノ件

第二〇号(別電二)

(一月五日接受)

白國首相演說要旨左ノ通り

英国案読了後深く失望シタルガ英国代表、仏、白代表意見ノ接近ニ最大ノ努力ヲナセルニ不拘一般の意見ノ合致ヲ見難キ程意見ノ相違アルヲ悲シム英国案ニ對スル仏國首相ノ

抑々英国ハ何等ノ担保保証無クシテ四ヶ年ノ支払猶予ヲ独逸ニ与ヘントスルモ恐ラク此四ヶ年間ノ休養ハ独逸ヲシテ全ク其力ヲ恢復セシメ其行動ニ自由ヲ与フルモノニシテ斯クノ如キハ連合國力其勝利ニ依ッテ得タル權利ヲ全ク放棄スルモノナリ

蓋シ独逸ハ事実上外債ヲ有セス其内債ハ「マーク」下落ニヨリ數フルニ足ラザルニ至リ而シテ唯一ノ債務タル賠償債務ハ英国案ニ依レバ千九百二十三年末ニ二百五十億金馬克千九百三十三年ニ二十億金馬克足ラズヲ支払ヒテ之レヲ免カルルヲ得ベシ斯クノ如クンバ茲數年ヲ出ズシテ独逸ハ欧州唯一ノ外債ヲ有セザル國トナリ増加スル人口ト戰爭ノ損害ヲ受ケサル工業其他ノ資源ヲ有スルヲ以テ荒廢地復旧ノ重任ヲ負ヘル仏國ニ對シ欧州ニ覇ヲ稱フルニ至ルベシ英国案ハ「c」債券ヲ廢棄スルノミナラズa b 債券ニ付テモ大ニ之レヲ減額スルモノナリ蓋シa b 債券ハ專ラ之レヲ賠償ニ充當スルニ反シ新第一種債券ハ之レヲ以テ總ベテノ条約ノ独逸負担ニ當テントス、即チ賠償ニ充當スル額ハ僅カニ其八割ニ過ギザルヲ以テ若シ千九百二十三年ニ独逸ガ其債券ヲ買戻ストキハ仏國ノ得ル所百五十億ニ止マラン

反駁ニ付テハ全然同感ニシテ独逸ノ支払不履行ハ全然故意ニ出ズルヲ確信シ其幾多ノ例証ヲ挙げ独逸ノ詐欺的手段ニ對シ保障ノ必要アリトナシ独逸債務ノ全額^(A.B.)ハ以テ独逸ヲシテ數年内ニ有利ナル地位ヲ占メ世界市場ヲ獲得セシムルニ至ルベシ

連合國間債務ニ関シ白國ハ其戰爭債務ノ免除ヲ得ルモ独逸ガ強制的ニ麻克相場ヲ制定シ白國ヨリ麻克ヲ撤去シタル為並ニ戰時独逸ノ取立金支払ノ為白國內債ハ戰前ニ二倍スルニ至レリ然ルニ英国案ニ依レバ白國ハ最大ナル犠牲少ナクトモ仏國ト同一ノ犠牲ヲ払ハサルベカラズシテ伊國ノ犠牲ヨリモ大ナリ

白國ノ優先權ニ関シテハ白國ハ昨年八月ノ取極ニ依リ独逸証券ヲ受領スルヲ承諾シ武府會議ヲ成立セシメ英仏間ノ協調ヲ保タシメントシテ這般ノ犠牲ヲ甘受シタルモノナリ然ルニ今右ノ犠牲ニ對シ前記債權ヲ拋棄センコトヲ求メラルハ遺憾トセザルヲ得ズ

吾人ノ犠牲ハ独逸ノ負担ヲ減ズル目的トスルニ非ズ若シ仏國荒廢地ノ為ニ吾人ノ犠牲ヲ要求スルモノトセバ吾人ハ之ヲ了解スルニ苦シマザルモ是レ他ノ一連合國ノ為要求セ

ラルモノナリ英国ノ誠有ル努力ハ之ヲ多トスルモ吾人ハ英国案ヲ承認スルヲ得ズ吾人ハ此処ニ討議ノ基礎トシテ仏国案ヲ採用センコトヲ提議ス
在欧米各大使旁山へ転電セリ

(別電三)

一月五日在仏国奥山臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第一
二号

パリ賠償會議ニ於ケル英国首相陳述ノ要旨報告ノ件

第二号 (別電三)

(一月六日接受)

英国首相陳述要旨左ノ如シ

英国案ガ白国優先権ヲ犠牲ニ供セントスルハ英国ノ為ノミナラズ連合国全般ノ為ニ要求スルモノナリ元来白国ニ二十億金麻克ノ優先権ヲ与ヘタルハ独逸ヨリ莫大ノ金額ヲ支払ハシメントシタル当時ノコトニシテ今ヤ白国ハ右優先権ヲ犠牲ニスベキモノト思考ス然レドモ右提議ニシテ苛酷ニ失ストセバ吾人ハ之ヲ撤回スルニ吝ナラザル可シ
英国案ハ「ヴェルサイユ」条約第八編第二付属書ノ規定ヲ破ルモノトハ思考セズ此点ニ関シテハ専門家ノ意見ヲ徵ス可シ英国案ハ若シ独逸ガ其義務ヲ履行セザル場合ニハ嚴重ナル制裁ヲ行ハントスルモノニシテ又独逸監督機關ノ議長

ニハ独逸大蔵大臣ヲ以テ充ツルコトヲ固執セザルベク同大臣ハ単ニ同機關ト連絡ヲ保ツヲ以テ足レリトス
英蘭銀行ニ於ケル仏国債務保障ノ為預入レタル仏国金貨ハ既ニ米國ニ存シ仏國ハ連合國債務ヲ支払フニ非ザレバ之ヲ回収スルヲ得ザル可シ

要スルニ英、仏意見ノ相違ハ之ヲ否認スルヲ得ズ而シテ此相違ハ独逸債務總額及其取立方法ニ存ス此ノ第二ノ点ニ関シ仏國案ハ直チニ支払ヲ受ケ得ル唯一ノ方法ハ独逸ノ「クレディット」ヲ確立スルニアルヲ忘却セルモノニシテ仏國ノ主張スル經濟的担保ハ同「クレディット」ノ確立ヲ不可能ナラシムルモノナリ「ルール」地方ノ占領ハ独逸ノ動脈ヲ扼スルモノニ外ナラズ又仏國ノ主張スル支払猶予期間内ノ支払ハ麻克ノ安定ヲ不可能ナラシムベシ
米へ転電シ、在欧各大使、「ローザンヌ」へ郵報セリ

五七

一月五日 (着) 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

パリ賠償會議決裂ノ旨報告ノ件

第一号

巴里賠償會議ハ四日午後第三回會議ニ於テ伊國代表ノ仏國

案支持ノ演說ニ次テ英国首相ノ仏國首相反駁ニ対スル詳細ノ弁明アリ仏國首相更ニ英国首相ノ弁明ヲ駁論シ結局英仏意見合致スルヲ得ス最後ニ英仏両首相ノ右談判不調ニ関スル声明アリタル後六時半遂ニ同會議ハ破裂スルニ至レリ英国首相一行ハ五日朝出發帰國スヘント云フ不取敢
在欧米各大使、「ローザンヌ」へ転電セリ

五八

一月五日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

パリ賠償會議決裂ノ経緯報告ノ件

第一四号

(一月六日接受)

往電第一一号ニ関シ、會議ハ最近迄極メテ親睦ノ間ニ行ハレタルガ其破裂ノ主因ハ仏國側ガ独逸ニ支払猶予ヲ許ス前提条件トシテ「ライン」占領地域及「ルール」地方ニ於ケル石炭木材並税関収入ノ管理ヲ主張シ之ヲ以テ独逸賠償ノ実ヲ挙げ得ルモノト為スニ反シ英国側ハ独逸賠償ヲ履行セシムルニハ先ヅ独逸ノ信用ヲ確立シ之ガ為無担保支払猶予及賠償總額ノ減額ヲ必要トシ仏國ノ主張スル「ライン」及「ルール」地方ニ於ケル措置ハ却テ独逸ノ信用確立ヲ不可能ナラシムルモノト為セルニ存ス此ノ根本意見ノ相違ハ第

一回會議ニ於テ英国案提出当初ヨリ到底相容レザルモノト認メラレ英仏両首相ハ主トシテ各自同案ノ弁護ニ努メ天下ニ向ッテ各自ノ主張ヲ声明スル為會議ヲ続ケタルノ觀ヲ呈シ此ノ根本ノ相違有ル以上却テ妥協ヲ試ミルヲ不可ト為シ三回ノ本會議ノ外何等私的協議ヲ用ヒズ遂ニ會議不調ヲ声明スルニ至リタル次第ニシテ之レ會議終了ニ際シ英仏両首相ガ各々此ノ重大問題ニ付意見ノ一致ヲ見ルヲ得ザリシハ遺憾ナルモ兩國友誼ハ依然トシテ渝ル処無カル可キ旨ヲ宣シ尚英国ハ仏國ノ主張スル措置ニ参加セズ又之ニ対スル責任ヲ負ハザル旨声明セルハ以テ同會議窮極ノ目的ヲ語ルモノト見ルヲ得可シ而シテ「ポアンカレ」ハ右會議終了後直ニ陸軍大臣ヲ招キ長時間打合スル処アリタリ

若杉力謀報者等ヨリ得タル情報ニ依レハ「ポアンカレ」ハ賠償委員會議長「バルト」ニ対シ一月六日同委員會ニ於テ過般木材引渡不履行ニ対スル決議同様ニ独逸石炭引渡不履行通告ニ関スル決議ヲ上程セシメ万一英國委員出席セサル場合ニハ更ニ本件決議ヲ同賠償委員會ニ於テ再ヒ可決セシメ以テ所定ノ手續ヲ完了シ愈々予定ノ行動ニ出ル手筈ナル由ナルカ右委員會ニ於テハ英國委員ノ欠席又ハ反対ア

ルヘキモ首相會議ニ於ケル伊白兩代表ノ態度ニ鑑ミ伊白委員モ仏國委員ニ荷担シ同決議可決疑ナカルヘク万一通過セサル場合ニ於テモ仏國ハ予定ノ行動ニ出ツヘシト觀測セラレ居レリ現ニ「ライン」占領軍中目下帰休中ノ仏國兵ハ「ライン」地方ヘ帰任スヘキ命令ヲ受ケタリトノ説サヘアリ

右ニ関シ「ポアンカレ」ハ一月五日尚滞在中ノ白國首相ト仏白協同行爲ニ付協議スル管ナル処白國首相ハ會議ニ於テモ全然仏國案ヲ支持シ今後ノ行動ヲモ共ニスヘシト觀測セラレ居ルモ同國內政上「フラマン」問題ニテ帰任後直ニ内閣辭職ノ噂アル今日白國カ如何ナル程度迄仏國ノ行動ヲ支持スヘキヤハ遽ニ斷シ難キモノアルモ之ニ「モーラル、サッポート」ヲ与フルハ疑ナカルヘク又伊國ハ到底仏國ト協同行爲ニ出ツルカ如キハ望ムヘカラサルモ其賠償取得上ノ見地ヨリ相当「モーラル、サッポート」ヲ与フヘシト云フ御參考迄

在欧米各大使、「ロザンヌ」ニ転電セリ

五九

一月五日

在仏國奧山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ノ受クヘキ賠償額ハ条約ニヨルモノノ約一分ニ過キスシテ英國カ伊國ヨリ受クヘキ弁済額ハ対伊英國債權ノ二割以上ニ上ルヘシ故ニ伊國ハ英國案ニ同意スルヲ得ス而シテ伊國ハ所謂「ムッソリニ」案ヲ討議ノ基礎トセムコトヲ求ム在米大使ヘ転電シ在欧各大使、「ロザンヌ」ヘ郵送セリ

六〇

一月五日

在伊國薩井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議ニ於ケル英國案拒否ノ理由ニツ
キ伊國首相閣議ニ説明ノ件

第一号

(一月六日接受)

四日ノ閣議ニ於テMussolini首相ハ巴里賠償會議ニ於ケル英國案拒否ノ理由ニ付大要左ノ通説明シ閣議ハ之ヲ可決セリ

英國案ハ伊國ノ利益ニ反ス現物賠償ニ於テ支払猶予ヲ独逸ニ与フルトセハ伊國ハ從來独逸ヨリ得來リタル石炭ノ供給ヲ今後得ルコト能ハサルニ至ルヘク為ニ燃料ヲ英國其ノ他ヨリ市価ニテ買入レサルヘカラサルコトナルヘシ歳出入ノ均衡維持上及伊國通貨ノ為替相場ニ悪影響ヲ与フヘシ支払猶予期間満了ノ曉伊國ハ独逸ヨリ受領シタル証券ノ大部

賠償問題ニ関スル英國案ニ反対ノ伊國代表演
説要旨報告ノ件

第一六号

(一月六日接受)

往電第一一号ニ関シ伊國代表演説要旨左ノ如シ

英國案ハ高尚ナル精神ニ基クモ賠償問題ヲ公正ニ解決シ得ルモノニアラス「ポアンカレ」ハ同案ヲ以テ平和条約ノ更改トナスモ更ニ同案ハ伊國ニ対スル重大ナル利益ヲ欠ケリ即チ独逸ハ旧敵國ノ賠償債務ニ関シ連帶責任ヲ有スルニ拘ラス英國ハ新ニ独逸ノ債務額ノミヲ定メムトス故ニ独逸ハ他ノ敵國ノ仕払ナキ場合之ニ代リ仕払ヲナス責任ナキニ至ルヘシ然ルニ塊洪及勃牙利仕払額ノ二十五「パーセント」ハ伊國ニ対スル独逸仕払額ノ不充分ナルヲ補フ為メ伊國ニ与ヘラレタルモノナリ又c証券中ノ一定額ハ伊國ノ塊國ニ対スル重大ナル犠牲ニ対シ与ヘラレタルモノナルニ英國案ニヨリc証券全廢セラルトキハ伊國ハ之カ補償ヲ得サルヘカラス又同案ニ依レハ仕払猶予期間ハ独逸ノ要求スル所ヨリモ長ク又連合國債務ニ関シ英蘭銀行預入ノ金塊ヲ英國ニ讓渡ストキハ伊國ハ即時五億金貨ヲ買入レ個人債權者ニ仕払フカ如キ損害ヲ受クルニ至ルヘシ併モ英國案ニヨリ伊國

分ヲ英國ニ引渡ササルヲ得サルヲ以テ予算編成上貸方ノ部ニ顯著ナル額ヲ計上セサルニ至ルヘシ又英國新聞ニ依レハ伊國ハ独逸以外ノ旧敵國ニ対シ自己債權ノ支払ヲ要求セサルニ至ルヘク連合國間ノ債務ノ清算ヲ得サルニ付テハ伊國ハ英國ニ対シ曩ニ同國ニ供託シタル五億金貨「リラ」ノ所有權ヲ認メサルヘカラサルノミナラス他ノ連合國中ノ小國例ヘハ羅馬尼智惠古等ニ対スル債權ヲ拋棄セサルヘカラス且伊國ハ英國案ノ第一種証券十五億金貨馬克ヲ英國ニ讓渡スルヲ要スルモノナリ之ヲ要スルニ英國案ヲ承認スルトセハ伊國ハ實際上独逸ヨリ何等受クル所ナク又対米債務ノ全部ヲ無効トスル何等ノ保障無キニモ拘ハラズ連合國ニ対スル債權モ將又独逸以外ノ旧敵國ニ対スル債權モ共ニ之ヲ拋棄セサルヘカラス是ヲ以テ現状ニ照シ英國案ハ原形ノ儘ニテハ到底之ヲ受諾シ得サルナリ

在欧米各大使、勞山ヘ転電セリ

六一

一月五日

在獨國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議ノ決裂ニ関スル獨國政府公表ノ
大要報告ノ件

第三号

(一月七日接受)

巴里會議ノ破裂ニ関シ独逸政府ハ大要左ノ通公表セリ
 今回巴里會議ニ於テ列席諸国カ独逸ノ仕能力ヲ遙ニ超過
 スル金額ヲ定メタル英国案ニサヘモ同意ヲ与フルヲ欲セサ
 リシ事態ニ顧ミ政府ハ自ラ進ムテ我提案ヲ會議ニ提出スル
 コトヲ断念シタリ独逸政府ハ独逸ノ堪ヘ得ヘキ賠償解決案
 ニ依リテノミ欧州ノ破壊ヲ救ヒ得ヘキコトヲ確信シ十月十
 四日公文並爾來数次ノ声明ニヨリ明ニシタル針路ヲ放棄セ
 サルヘシ尚当国新聞紙ハ英米ノ反対アルニ拘ラス「ポアン
 カレー」ハ一月十五日賠償金仕払ノ不履行ヲ以テ其計画ヲ
 実行スヘキコト殆ト疑ナシ独逸ハ今ヤ武備ヲ奪ハレ抵抗力
 ナキモ挙国一致冷靜ニ事件ノ伸展ヲ監視セサルヘカラスト
 ナセリ

英、仏、ロザンヌヘ転電セリ

六二 一月十二日

内田外務大臣ヨリ
 在英国徳川臨時代理大使宛(電報)

パリ賠償會議不調後ノ時局ノ展開ニツキ情報

蒐集ノ上報告方訓令ノ件

第七号

際ニ付不本意ナカラ要領ノミ同大使ヘ打電スルニ止メタル
 ニ付特ニ帝國政府ノ御好意ニ依リテ全文当方ヨリ發電ヲ煩
 ハシタキ旨外務大臣ヨリ懇請ノ次第アリタルニ付御含迄
 編註 賠償ニ関スル独逸政府提案ハ本電別紙英訳文ノ外十二年
 五月三日付在独国日置大使宛内田外務大臣宛公信ヲ以テ
 独文テキスト及び英、仏各訳文が送付サレテイル。ヨロ
 ニハ本電別紙英訳文ニ代リ略々同文ノ右公信付属英訳文
 ヲ収録シタ。

(付記)

五月三日在独国日置大使ヨリ内田外務大臣宛欧公第一〇四号

付属書

賠償ニ関スル独逸政府提案

The German Government has always maintained and through the present international discussion feels itself obliged to emphasize again that the questions on which the reconstruction of the devastated areas, so earnestly desired by Germany, and furthermore the restoration of sound economic life and the peace of Europe depend, can only be solved by mutual understanding. The occupation of the Ruhr-Basin is diametrically opposed to the above, and has therefore called forth the passive resistance of its population. The Ger-

巴里會議不調ノ結果生ジタル刻下ノ時局ハ今後ノ展開如何
 ニヨリテハ重大ナル形勢ヲ誘致スルモノト認メラルルニ就
 テハ既ニ時々御報告ニハ接シ居ルモ尚此上共貴任国当局ト
 密接ナル接触ヲ保タレ情報ノ蒐集並ニ局面ノ変化ニ特ニ御
 注意ノ上可成詳細電報セラルル様致シ度シ
 仏、伊、独、白ヘ訓令トシテ転電アリ度シ

六三 五月二日

在独国日置大使ヨリ
 内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル独逸政府提案ヲ我方政府ニ進達

方依頼ノ件

付記 五月三日在独国日置大使ヨリ内田外務大臣宛欧公

第一〇四号付属書

賠償ニ関スル独逸政府提案

第九七号

(五月三日接受)

往電第九三号ニ関シ

五月二日外務次官来訪独逸政府提案ニ英(別電第九八号)

仏訳文ヲ添ヘテ本使ニ手交シ帝國政府ニ進達方依頼アリタ
 リ本提案ハ本来主要連合国ニ対スルト同様五月二日午後五
 時「ゾルフ」大使ヨリ全文提出スヘキ筈ナルモ財政窮乏ノ

man Government shares the desire of all sober-minded people, that the daily increasing tension be relaxed and the wanton destruction of economic values be stopped. The German Government has therefore decided to make another attempt in this direction, without however abandoning its legal standpoint or desisting from the passive resistance, which is to be continued until the areas occupied in excess of the stipulations of the Treaty of Versailles have been evacuated and the conditions on the Rhine have been restored according to the terms laid down in the Rhineland Agreement. In spite of the events of the last few months Germany has adhered to her readiness to do everything within her power for the purposes of reparation, especially for reconstruction of the devastated areas. Every attempt to express this readiness in the form of practical proposals is rendered difficult, however, by the fact that the present financial and economical conditions of Germany do not permit of an accurate estimate of Germany's capacity, in final and concrete figures. For this reason every solution must contain an elastic factor which takes into account the present im-

possibility of arriving at an accurate estimate.

It should furthermore be noted that Germany because of the lack of excess profits from her own production will for the near future be unable to raise any large amounts of capital from her own resources and that she therefore is in need of foreign loans, which however will only be obtainable after the German credit has been restored.

Proceeding from these considerations and in harmony with the fundamental idea of the proposal prepared by Germany for the Paris Conference of January last, the German Government formulates its proposals for a solution of the reparation problem and the political questions connected therewith as follows:

The sum total of Germany's obligations as to payments in cash and in kind by virtue of the Treaty of Versailles is to be fixed at 30 milliards Goldmarks of which, by a bond issued at normal rates on the international money-market, 20 milliards are to be raised before July 1st 1927, 5 milliards before July 1st 1929, and 5 milliards before July 1st, 1931.

1) The first 20 milliards Goldmarks will at once

equal to those of the other nations represented, or a court of arbitration, composed of a representative of the Reparation Commission, a representative of the German Government and a chairman whom the President of the United States shall be requested to nominate in case the other two members of the Committee fail to agree in his nomination.

3) Germany will also, in accordance with the existing treaties and to an extent still to be determined, make payments in kind, which are to be credited to her account.

The German Government is convinced that with this proposal it has reached the utmost limit of Germany's economic capacity; after the further heavy dislocation and weakening of the German economic organism caused by the Ruhr occupation it even has grave doubts, as to whether this proposal does not exceed Germany's capacity. The German Government is furthermore convinced that no unprejudiced party that takes into consideration the shrinkage of Germany's basis of production and the reduction of her national wealth through the enormous payments already made,

be offered for subscription. The interests on the bonds up to July 1st 1927 are to be taken out of the loans themselves and to be paid into a special fund under the control of the Reparation Commission. If the 20 milliards Goldmarks cannot be raised by way of loan before July 1st 1927, interest of 5% is to be paid on them from this date forward, in addition to 1% amortization.

2) In case the two amounts of 5 milliards Goldmarks each cannot be raised in full by the issues of bonds at normal rates before the dates fixed, an impartial international commission shall decide whether, when and how the amount not yet accounted for is to be raised. The same commission shall decide in July, 1931, whether, when and how, after July 1st 1931, the interest not provided for in the first instance, is subsequently to be raised. As the impartial international commission above-mentioned is to be considered either the Syndicate, which put up the first loan of twenty milliards Goldmarks, or a committee of international business men chosen according to the suggestions of Mr. Hughes, the American Secretary of State, or a committee in which Germany is to be represented with rights

if judging impartially can arrive at a higher estimate. In case this view should not be shared by the other side the German Government proposes in accordance with the suggestion of the Secretary of State, Mr. Hughes, to leave the whole reparation problem to the decision of an international commission free from every political influence.

The German Government is prepared to provide special guarantees for the payments offered. The entire possessions and all the sources of revenue of the Reich as well as of the German Federal States, according to the Treaty of Versailles, already generally pledged; therefore only by way of negotiations with the international loan syndicate and the Reparation Commission, it will be possible to determine in what way these securities can, for the purpose of the loan service, be given a concrete form and what guarantees are to be provided in each particular case. The German Government is also prepared, in accordance with the terms of the agreements to be made, to take all proper, if necessary, legislative measures in order to obtain the cooperation of the entire German business world in furnishing the securities of satisfactory nature. The payments in kind

are to be guaranteed by long-term private contracts providing fines for their breach.

The fulfilment of Germany's obligation depends upon the stabilization of the German currency. If the German currency can, in connection with the regulation of the reparation problem, methodically and lastingly be stabilized, the complaints of the other manufacturing countries about a damaging German competition will also immediately disappear. After the stabilization it will also be possible to create that order in the household of the Reich, which is required by Germany and her creditors.

For the realization of this program and also in the interest of those who loan the money, it is essential that in the future no more forcible seizures of securities will take place, and that no further sanctions will be applied, and that Germany be freed from the unproductive expenses, she is burdened with at present, and also from the political and economical restrictions. Amongst this is the quick re-establishment of a uniform administration for the whole of the German territory, that no further use be made of the possibility provided

cannot be regulated in the usual diplomatic way, to some kind of peaceful international procedure, that is juridical conflicts to an arbitration proceeding and all other conflicts to a reconciliation process after the example of the Bryan Agreements.

The German Government proposes to enter into negotiations on the basis of the above suggestions. The starting point of such negotiations must be the restoration of the status quo and within the shortest possible period. This means that the territories occupied beyond the stipulations of the Treaty of Versailles be evacuated, that in the Rhineland conditions, according to the Rhineland agreement, are restored, that the arrested German citizens be set at liberty and that the exiled be returned to their homes and posts.

The German Government has directed the same note to the Governments of the United States of America, Belgium, France, Great Britain, Italy and Japan.

(右和訳文)

米国、白耳義、仏蘭西、英吉利、伊太利及日本宛独逸政府ノ覚書

独逸政府ハ欧洲荒廢地ノ復旧並ニ經濟生活及一般平和ノ

for in the Treaty of Versailles to exclude Germany from economic equality, and that after the stabilization of the mark, the importation of German wares into other countries be no longer subjected to the restrictions brought about by the depreciation of the German currency.

To further the peace of Europe by common economic effort, and in order to re-establish the natural economic relations between production and consumption by private economic agreements, a basis is to be created for the unhampered exchange of vitally important commodities between the countries concerned. To this end long term private contracts for the delivery of coal and coke are especially important.

In the same interest of peaceable cooperation between Germany and France, the German Government is prepared, as was her intention in proposing the conclusion of a Rhine Pact, to accept any agreement calculated to secure peace and based on reciprocity. The German Government is prepared more especially to accept any agreement binding both Germany and France, to submit all conflicts arising between them, which

恢復ニ関スル諸問題ハ關係各國間相互諒解ニ依リテ之ヲ解決スルヲ得ヘシトノ從來信念ヲ再ヒ茲ニ確言セントス、ルール地方ノ占領ハ以上ノ精神ニ全然背馳シ同地方住民ノ消極的反抗ヲ誘致セル素ヨリ其処ニシテ独逸政府ハ之ニヨリ日々徒ラニ經濟財貨ノ破壊セラルルヲ遺憾トシ右事態ヲ終熄セシムルカ為其努力ヲ新ニスルノ決心ヲナセリ但シルールノ撤兵ヲ見、ライン条約ニ規定セラレタル、条件ノ満サルル迄ハ政府ハ其法律的見解ヲ固執シ消極的反抗ヲ持続セサルヲ得ス

独逸政府ハルール占領等ノ事実ニ拘ラス其力ノ及フ限り賠償義務ヲ実行シ、殊ニ荒廢地ノ復旧ニ努力セントスルノ意思ハ毫モ之ヲ變更セス唯現下ノ我財政經濟狀態ニテハ独逸ノ能力ニ関シ正確ナル見積ヲ立テ断定的具体的数字ヲ挙示スル事不可能ナルカ為独逸政府ヨリ實際的提議ヲ為スコト困難ナル事情ニ在リ、斯カルカ故ニ賠償問題ノ解決案ニハ必ス相当屈伸ノ余裕ヲ存シ前記ノ事情ニ適合セシムルコトヲ図ラサルヘカラス

次ニ目下独逸ニハ生産ノ超過利益ナルモノナキヲ以テ当分ノ間ハ国内資源ヨリ巨額ノ資本ヲ調達スルコト不可能ナル

ヲ以テ勢ヒ外債ニ依ラサルヘカラス而カモ此ノ事タル先ツ
独逸ノ信用恢復ヲ俟タサルヘカラス

右事情ニ顧ミ又本年一月ノ巴里會議ノ際ニ準備セル我提案
ノ根本精神ニ法リ独逸政府ハ賠償問題並ニ之ニ関連スル各
種政治問題ノ解決案トシテ次ノ如キ提案ヲナサントス

ヴェルサイユ条約ニ基ク独逸債務ノ総額ヲ三百億金貨馬克
トシ其中二百億金貨馬克ハ一九二七年七月一日迄ニ外国金
融市場ニ於テ普通ノ利率ヲ以テ公債ヲ募集シテ之ヲ調達シ
更ニ一九二九年七月一日迄及一九三一年七月一日迄ニ各五
十億金貨馬克ヲ同様調達スルコト

一、右二百億金貨馬克ハ直ニ公債ヲ売出シ一九二七年七月
一日迄ノ利子ハ之ヲ公債収入ヨリ控除シ賠償委員ノ管理
ノ下ニ之ヲ特別基金トナス、若シ一九二七年七月一日迄
ニ公債ニ依リテ二百億馬克ヲ調達スルコト不可能ナル場
合ニ於テハ右金額ニ対シ今日ヨリ起算シ五分ノ利子並ニ
一分ノ減債基金ヲ支払フヘシ

二、両回ニ亘ル五十億金貨馬克ノ公債ニシテ所定日付迄ニ
全部ノ募集ヲ了ヘサル場合ニ於テハ公平ナル國際委員會
ヲ設ケ不足額調達ニツキ決定セシム

帝國並ニ連邦諸國ノ財産及財源ハ悉ク一般の抵当ノ目的
トナリタルヲ以テ新ニ募集セラルヘキ公債ノ抵当トシテ
此等財産及財源ヲ提供スルニハ國際財團並ニ賠償委員會
ト各種具體的商議ヲ必要トスヘシ。政府ハ又右公債ニ関
スル約定履行ノ為立法作用ニヨリ全國實業界ノ協力ヲ求
メ又現物支払ニツキテハ長期ノ私人契約ニヨルヘク違約
ニ対シテハ罰則ヲ設クヘシ

独逸政府ノ債務履行ハ一ニ独逸貨幣ノ安定ニ俟タサルヘカ
ラス若シ賠償問題ノ調整ニ伴ヒ独逸貨幣ニシテ秩序のニ且
ツ永統的ニ安定スルヲ得ハ他國生産者ノ訴フル独逸競争ノ
害ハ立所ニ消失スヘシ。独逸自身並ニ独逸ノ債權者カ希望
スル独逸國內秩序ノ恢復モ之ニヨリテ始テ期スルヲ得ヘシ
以上独逸政府ノ提議ヲ実行シ公債応募者ノ利益ヲ維持スル
カ為ニハ将来再ヒ抵当物ノ強制的差押又ハ此上独逸ニ対シ
制裁ヲ加フルカ如キコトナク独逸ヲシテ現在ノ如ク不生産
の支出並ニ政治的、經濟的束縛ヨリ脱セシムルヲ要ス例ヘ
ハ独逸全國ニ亘リ統一セル行政組織ヲ確立シ又ハヴェルサ
イユ条約ノ規定ヲ利用シ独逸ニ經濟的不平等ノ待遇ヲ与フ
ルカ如キコトヲナサシムヘカラス又マーク相場ノ安定ヲ得

右國際委員會ハ最初ノ二百億金貨馬克ノ募集ニ与ル財團
ヲ以テ之ニ当ラシムルカ米國國務卿ヒューズ氏ノ案ニ基
キテ選定セル國際財業者委員會ヲ用フルカ或ハ他國委員
ト同様ノ權利ヲ有スル独逸委員ヲモ加フル一委員會ヲ作
ルカ或ハ仲裁裁判ニヨルヘシ

三、独逸ハ又現行条約並ニ今後ノ決定ニ基キ現物支払ヲ為
スヘク、其支払額ハ独逸ノ貸方ニ記入スルモノトス

以上ノ提議ハ独逸經濟力ノ極限ヲ示スモノニシテ独逸政
府ハルル地方占領ノ結果独逸ノ經濟組織ノ攪乱萎微ヲ
来セル今日右提議ハ或ハ独逸能力ノ限度ヲ超過セスヤト
ノ重大ナル疑問ヲスラ抱ク次第ナリ今日迄ノ莫大ナル支
払ニヨリテ独逸ノ生産力カ著シク減削セラレ國富ノ減少
シタル事實ヲ知ルモノハ公平ニ見テ前記独逸政府ノ提案
ノ極メテ妥当ナルヲ認ムヘキヲ信ス不幸ニシテ連合諸國
側ノ見ルトコロニシテ独逸政府ト異ナルモノアラハ独逸
政府ハ米國國務卿ノ提案ニ基キ賠償問題ヲ挙ケテ公平ナ
ル國際委員會ノ決定ニ一任センコトヲ提議ス

前頭独逸政府ノ提案ニ基ク支払ニ対シテハ独逸政府ハ特
別ノ抵当ヲ提供スヘシ最モヴェルサイユ条約ニ基キ独逸

タル後ハ他國ニ輸出スル独逸貨物ニ対シマークノ下落時代
ニ設ケラレタル諸種ノ制限ヲ撤廃スルコト必要ナリ經濟的
協調ニヨリ歐羅巴ノ平和ヲ進メ個人契約ヲ自由ニシテ生産
ト消費トノ間ニ自然の關係ヲ確定セムカ為メニハ關係諸國
ノ間ニ重要貨物ノ交換力自由ニ行ハルコトヲ要ス殊ニ石
炭、コークスノ売渡ニ関シ長期ノ私人契約ノ行ハルコト
最モ必要ナリ

独逸政府ハ独逸間平和的協力ノ為ニハ曩ニライン条約ヲ提
議セルト同一精神ニ基キ平和ヲ目的トシ相互主義ヲ基礎ト
スル何等ノ協約ヲモ喜ンテ之ヲ締結セントス殊ニ兩國間ニ
生スル紛争ニシテ普通外交手段ニヨリ解決シ得サルモノヲ
或種ノ國際的平和手段例ヘハ法律問題ハ仲裁裁判ニ他ノ紛
争ハブリアン協約ノ如キ和解方法ニ委スルノ協約ヲ歡迎ス
ルモノナリ

独逸政府ハ以上ノ提案ヲ基礎トシテ商議ヲ開始センコトヲ
提議ス右商議ノ前提トシテ先ツ直ニスタチュコー(事前ノ
状態)ヲ恢復スルヲ要ス即チヴェルサイユ条約ノ規定ヲ超
エテ占領セラレタル土地ヨリ撤兵スルコトライン地方ニ於
テハライン協約ニ基ク状態ヲ恢復スルコト逮捕セラレタル

独逸人ヲ解放スルコト追放独逸人ヲ帰還セシムルコト即チ是レナリ

六四 五月二日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル独国政府提案ニツキ同国外相及

比外務次官トノ談話報告ノ件

第九九号 (五月三日〜五日接受)

往電第九八号ニ関シ昨日外務大臣本日外務次官トノ会談中左記御参考ニ供ス (一)這回ノ提議ハ予テ英国又ハ其他ノ筋ヨリ予メ独国ノ意向ヲ搜リ之ニ準拠シテ起案セラレタルモノナリトノ本使ノ問ニ対シ外相ハ英国其他ヨリ何等ノ報道ニ接シ居ラズ又独逸政府ハ提案ノ時機未ダ熟セリトノ確信ヲ有セザルモ「カーゾン」ノ演説モアリ旁他日起ルベキ時機ヲ逸シタリトノ非難等ヲモ考慮シタルモノニシテ余リ多クノ望ミヲ之ニ属セズト謂ヘリ (二)「カーゾン」ハ如何ナル意思ニ出デタルモノト諒解スルヤトノ問ニ対シ寧ろ Home Consumption ニシタルモノナラム聞ク処ニ依レバ「ポアンカレイ」ハ之ニ対シ抗議シタル由ナリ (三)「ポアンカレイ」ノ提案ニ対スル地位ヲ如何ニ推度スルヤトノ問ニ対シ頗ル

Krupp von Bohlenガ仏国官憲ニ捕縛セラレタリトノ報道接到シ議場沸騰シ仏国ノ態度ニシテ今日猶斯克ノ如クンバ提案ノ価値無シトノ議論勢ヲ得タルモ辛ジテ提出ノ事ニ纏メタリ仏国ガ提案ノ内容迄モ能ク知りツツ斯ノ如キ措置ニ出デタルハ或ハ案ノ提出ヲ怖レテ之ヲ妨害セントシタルニアラズヤトモ察セラル云々ト次官ハ語レリ
在欧米各大使ヘ転電セリ

六五 五月四日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル独国提案ニツキ賠償委員会各国

委員ノ意見報告ノ件

第三一〇号 (五月五日接受)

賠案第三五六号 独逸提案ニ対スル賠償委員会各国委員ノ意見ニ付閱場ノ聞キ得タル処左之通
(一)「ブラズベリー」ノ内話ニ依レバ今回ノ独逸提案ハ何等目新ラシキコトナク多少ノ期待ヲ有セシ予ハ多少ノ失望ナキ能ハズ、仏白ハ直ニ不同意ヲ表スベク英ノ意見ハ予不日帰英ノ筈ナレバ其ノ上ナラデハ判明セザルモノ予ノ想像スル処ニ依レバ依然日和見の態度ヲ継続スルノ外ナカ

困難ナルベシ仏国実業家ハ「ルール」占領ノ実益無キニ失望シ何ントカ別ニ解釈ヲ求メン事ヲ望ムト同時ニ議院内ノ national block ハ尚依然強硬ノ政略ヲ維持シ居リ又夫人間ノ不和ニ因リ大統領及首相ノ軋轢漸次激烈トナル模様アリ且白国経済上ノ危機等モ加ハリ彼ハ許否兩難ノ間ニ立タン殊ニ這回ノ提案ニ於テハ金額ニ就テモ賠償及政治的保障其他凡テノ点ニ付テモ充分ノ elasticity ヲ存シ置クカ如キ当方ニ於テ用意シタル処ハ彼ニ一層ノ困難ヲ与フルナラム
(四)若シ本案ガ仏国ノ受諾ヲ得ザル場合ニ独逸ハ猶抵抗ヲ継続シ得ベキヤトノ問ニ対シ人民ハ鉄橋ノ破壊或ハ「コークス」ノ製造中止等今ヤ「アクチヴレジスタンス」ニ移ラントスルノ傾向アリ吾人ハ容易ニ屈服セザルナリ (五) Stresemann 内閣成立説ニ関シ次官ハ今回ノ提案ニ対スル実業家及各政党ノ賛同ヲ得タルハ一 Cuno 自身ノ信用ニ依ルモノニシテ「ストレーゼマン」ハ未ダ之ヲ有セズト答ヘタリ
(六)仮リニ仏国ニ於テ本案ヲ受諾シタリトセンカ地租ノ増徴、八時間労働制ノ廃止等内政上容易ナラザル闘争ヲ生ゼザルヤトノ問ニ対シ之ガ仏国ノ要求ニ基クトセバ喧嘩ハ割合ニ容易ナリト謂ヘリ (七)本案ヲ最終ニ連邦首相ニ付議中

ラン乍併「カーゾン」過日ノ演説ニ対スル世評モ彼是アルコトナレバ英国ノ回答振ハ一層注意ヲ要スルモノト思ハル、本提案ガ基礎トナリテ近ク国際會議ノ開カルルガ如キハ万之ナカルベシ云々

(二)仏国委員ニハ会谈ノ機ナク白国委員ハ昨夜帰国セルヲ以テ「ベメルマン」氏ニ会見セルニ同氏モ政府ノ意見又ハ仏白共同回答ヲナスヤ否ヤ等ニ付テハ何等知ル処ナキ旨前言シ仏白ハ一日ノ會議ニ於テ英国ノ提案セル賠償最少限度額二百七十億金馬克ヲ拒絶セル今日如何ニシテ今回ノ提案最少限度額百五十億ニ同意シ得ベキ加之「ルール」ヲモ撤回スベシト云フガ如キ只滑稽ト云フノ外ナシトテ提案ノ全ク問題トナラザルヲ仄カシ又仏白ノ対独回答ハ仏白首相定例会議ノ提議トナルベキヤトノ問ニ対シテハ右會議開催ノ時日ハ未定ナルモ恐ラク其ノ前ニ回答ノ決定ヲ見ル可シト語レリ、序ニ往電賠案第三五五号所報仏白専門家会合其ノ後ノ經過ヲ尋ネタルニ未ダ何等纏リタル案ナキ由

(三)米国委員ハ其ノ私見トシテ本提案ハ一方仏国民心ニ勝利ノ印象ヲ与ヘ他方独逸支払能力限度ヲ積極的ニ発表セル

点ニ於テ大ニ意義アリト信ズルモ本提案ニ対シ米国政府ハ如何ナル態度ニ出ヅベキヤニ関シテハ何等知ル処ナシト述ベタリ

六六 五月五日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル独国覚書ニ対シ仏国外務省ヨリ
送付越セル回答要領報告ノ件

第三一七号 (五月六日接受)
往電第三一五号ニ関シ

五日外務省ヨリ二日付独逸覚書ニ対スル回答ヲ送付シ来レリ、右ハ在仏独逸代理大使ニ交付セラルベク頗ル長文ナルモ内容ハ往電第三一五号ト大差ナシ要領左ノ通
独逸側ニ於テハ仏白側ノ行動ハ平和条約違反ナリトナスモ独逸側ノ新提案ガ却テ違反ナリ仏白側ニ於テ遂ニ現実ノ担保ヲ獲得セントスルノ措置ニ出デタルハ独逸側ガ平和条約ノ条項及其ノ後ノ協定ヲ履行セザルガ為已ムナク事茲ニ至レルノミ而シテ仏白側ノ措置極メテ平和的ナリシニ拘ラズ独逸側ハ凡ユル手段ヲ講ジテ之ニ反抗セリ
独逸側ガ今回提議セル賠償額ハ賠償委員会ガ決定シタル金

國ニ直接拒絶ノ回答ヲナスベキ旨申越ノ件

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

Tokyo, le 5 Mai, 1923.

Monsieur le Comte,

Mon Gouvernement me fait connaitre qu'il est en possession d'une note qui lui a été remise par le Gouvernement Allemand en même temps qu'aux représentants du Japon, des Etats-Unis, de Grande-Bretagne, de Belgique et d'Italie. M. Poincaré estime que les propositions qui font l'objet de cette note et qui forment l'ensemble des offres allemandes pour le paiement des réparations, loin de pouvoir être accueillies, ne sont même pas de nature à pouvoir servir de base de discussion. Le Gouvernement Français se voit en conséquence obligé de les rejeter. L'action de la Ruhr ayant été engagée par les Gouvernements Français et Belge conformément aux droits qu'ils tiennent du paragraphe 18 de l'annexe 2 qui les autorise à agir isolément, le Gouvernement Français répondra directement au Gouvernement Allemand après s'être entendu avec le Gouvernement Belge sur le sens général de la réponse.

額ノ四分ノ一ニサヘ達セズ仏白側トシテハ已ニ屢々声明セル如ク鮮ク共両国ガ受クベキ賠償ニ関スル限り絶対ニ之ガ減額ヲ承認シ難シ独逸ノ利益増進ノ為仏白ニ於ケル戦争荒廢地ノ恢復ヲ犠牲トスルハ不当ト云フベシ独逸ノ新提議ニハ毫モ誠意ノ認ムベキナシ殊ニ仏白側トシテハ目下国力ノ恢復上最重要ナル時期ニ際シ千九百二十七年七月一日迄即四年半ノ久シキニ亘リ何等ノ保障ナクシテ賠償額ノ支払延期ヲ許シ加フルニ漫然「ルール」ヨリ撤兵スルガ如キハ元ヨリ承認シ難シ

独逸側ノ言分ハ結局平和条約ノ破壊ナリ仏白側ノ条約上ノ權利ニ基キ執リタル正当ナル措置ヲ無効ニ帰セシメントスルモノナリ仏白側ハ断ジテ反対スル処ナリ云々

右回答全文ハ在本邦仏国大使ヨリ御入手ノコトトハ察セララルモ若シ然ラザルニ於テハ重要ナル部分丈ケナリ共電報スルニ付何分御指令ヲ請フ
在欧各大使ヘ転電セリ

六七 五月五日 在本邦仏国大使ヨリ
内田外務大臣宛

賠償ニ関スル独国提案ニ対シ仏国政府ヨリ独

Cette réponse sera communiquée pour information aux Gouvernements alliés intéressés avant d'être remise au Gouvernement Allemand.

Conformément aux instructions qui me sont envoyées, j'ai l'honneur de porter ces informations à toutes fins utiles à la connaissance de Votre Excellence./.

Veillez agréer, Monsieur le Comte, les assurances de ma très haute considération.

(Signé) P. Claudel

Son Excellence
le Comte Uchida,
Ministre Impérial des Affaires Etrangères
etc., etc., etc.

(布和訳文)

以書翰致啓上候陳者本國政府ヨリノ通報ニ依レハ政府ハ日本國、合衆國、英國、白耳義國及ヒ伊太利國ノ諸代表者ト同時ニ独逸國政府ヨリ一通ノ覚書ヲ受領致候処「ポアンカレ」氏ハ右覚書ノ内容ニシテ且賠償支払ニ関スル独逸國提供ノ全部ヲ構成スル提議ハ到底受諾不可能ナルノミナラス討議ノ基礎トナリ得ル性質ノモノニスラアラスト思惟致候從テ仏蘭西國政府ハ右提議ヲ拒絶スルノ已ムナキ仕儀ニ有之候仏白兩國政府ハ其ノ単独行動ヲ許容セル第二付属書

第十八ニ抛リ享有セル權利ニ違由シテ既ニ「ルール」ニ於ケル行動ヲ開始致候ニ依リ仏国政府ハ回答ノ大意ニ関シ白国政府ト協議ヲ遂ケタル上独逸国政府ニ対シ直接ニ回答可致右回答ハ独逸国政府ニ交付前關係同盟国諸政府ニ参考ノ為通牒可致候

本使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ何等御参考迄右通報ヲ閣下ニ致スノ光荣ヲ有シ候

右申進旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

六八 五月五日 在ベルギー国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル独逸国提案ニ対スルベルギー政府
ノ回答書写同国外相ヨリ送付越ノ件

第八五号 (五月七日接受)

五日午後六時白国外務大臣ハ独逸国ノ賠償事件公文ニ関シ六日夜八時当地独逸国臨時代理公使ニ手交スベキ回答書写ヲ極秘トシテ送付シ来レリ数千語ニ亘ル長文ニシテ大体白仏共同ノ主張ト見ルベキモノナレドモ当国特種ノ主張モ尠ナカラズ要領追テ電報スベシ

在欧州各大使、在米大使へ転電セリ

六九 五月六日 在ベルギー国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ベルギー政府ノ賠償ニ関スル対独回答文要領
報告ノ件

第八六号 (五月七日接受)

往電第八五号ニ関シ

白国政府ノ対独回答文要領左ノ通

(一)、劈頭独逸側通牒文中仏白ノ「ルール」占領ガ「ベルサイユ」条約違反ナリトナセル点ノ誤ナルコトヲ指摘シ仏白ハ独逸ノ賠償債務不履行ニ関スル賠償委員会ノ確認ニ基キ担保獲得ノ為「ルール」ニ入リシモノニシテ只独逸政府ノ命令ニ依ル組織(不明)ナル抵抗ニ對抗スル為武力占領ノ已ムナキニ至リタルコトヲ叙シ右抵抗ノ継続セラルル限り仏白ハ如何ナル独逸側提案ヲモ考慮スルコトヲ得ズトナシ、

(二)、次ニ独逸新賠償案ハ次ノ諸理由ニ依リ承認シ難シ

(イ)、独逸側ノ提議スル賠償額ガ賠償委員会決定額ノ四分ノ一ニモ達セズシテ仏白ノ戦争損害ヲ償フニ足ラザルコト

(ロ)、独逸側ノ提議スル確定債務三百億ハ「エラストイシテ」ヲ云フモ之レ却テ債務総額ノ不確定ヲ理由トシテ債務履行ヲ怠ルノ口実ヲ独逸側ニ与フル危険アルコト

(ハ)、加之三百億ノ金額モ名義上ノモノニ過ギズ、一九二七年迄ニ二百億(之モ公債利子ノ扣除ニ依リ実ハ百五十八億二千ワトナル)ヲ支払ハント云フモ之レ債務全部ニ亘リ四年半ノ新「モラトリウム」ヲ要求スルモノナリ

(ニ)、一九二九年及一九三一年ノ二回ニ支払ハントスル残余ノ百億ニ付テハ勿論右二百億ニ付テサへ何等ノ保障ヲ与ヘザルコト

(ホ)、賠償委員会ニ代ユルニ国際委員会又ハ仲裁裁判所ヲ以テセントスルハ「ベルサイユ」条約ヲ破壊スルモノナルコト

(ヘ)、現金及実物給付ノ確保手段ニ関シテモ頗ル曖昧ニシテ馬克相場ノ安定、外債(不明)方法等ニ付何等具体案ヲ示サザルコト

(三)、「セキュリテ」(保障)ノ問題ニ関スル対仏提案モ頗

ル漠然タルノミナラズ此点ニ関シ白国ニ付何等言及スル処ナキハ一九一四年独逸ノ白国中立侵害ノ事実ニ鑑ミ頗ル奇怪ナリ

(四)、要スルニ独逸新提案ハ種々ノ点ニ於テ「ベルサイユ」条約ニ対スル反逆ヲ含有スルヲ以テ仏白ハ之ヲ受諾スル能ハズ、仏白ハ独逸ヨリ賠償ノ有数ナル支払アル迄ハ斷ジテ「ルール」ヨリ撤退セサルノ決心ヲ変ゼズ、云々
在欧米各大使へ転電セリ

七〇 五月七日 在ベルギー国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スルベルギー政府ノ対独回答ヲ発セ
ル経緯ニツキ同国外相談話ノ件

第八八号 (五月八日接受)

七日外務大臣ト会谈シタル処同大臣ハ一、先ヅ賠償ニ関スル対独回答ニ付テハ在東京白国大使へハ単ニ右回答ヲ発シタル旨電報スルニ止メ「テキスト」ヲ送ラザリシ趣ニテ本使ガ其ノ大要ヲ速報セシコトヲ德トスル旨ヲ述ベ次デ右回答ニ至ル内情ヲ述ベ去三日独逸ノ提案ニ接スルト同時ニ英
国政府ヨリ内々ノ依頼アリテ左ノ三点ヲ「ポアンカレ」ニ

要求セリ

(一)、回答文ハ主要連合国鮮ク共英、仏、白ノ三国共同シテ作製シ之ヲ独逸ニ送致スルコト

(二)、独逸ノ提案ヲ排斥スル理由ヲ縷陳シテ世界ノ輿論ニ訴フベキコト

(三)、回答文ハ最穩当ナル言辞ヲ用キ独逸国民ノ感情ヲ激シ更ニ同国ガ新提案ヲナスヲ妨グルガ如キコトナキ様ニスルコト

然ルニ(一)ニ就テハ「ボ」ニ峻絶セラレ遂ニ仏白二国ノミノ共同回答トナリ、(二)及(三)ニ就テハ幾多ノ困難アリタルモ結局「ボ」氏ノ同意ヲ得タルガ(「ボ」ノ原案ハ僅ニ十行ノミナリシ由)独逸政府ニ回答ヲ交付スル前相当ノ時間ヲ置キ英政府其ノ他ニ内示スル件ニ関シテハ更ニ困難ニ会シ辛クモ十六時間ノ猶予ヲ存シタリ

「ボ」ノ対独感情ハ周知ノ事実ニシテ之ヲ支持スル「ブロック、ナショナル」ノ感情モ同一ナルガ他方英政府ハ「ロイド・ジョージ」去リテ以来賠償問題ニ通曉スルモノナク、殊ニ首相ハ養病ノ為不在ニシテ「カーゾン」亦病ミ、政界ノ実情安定セザルガ故ニ英仏両者ノ間ヲ斡旋スルニ意

之ヲ以テ商議ヲ一応断絶セシムベキニ非ズ英國政府トシテハ仏白既ニ不当ニモ単独行動ニ出デタル以上英國モ亦単独独逸ニ対シ其提議ノ不当ヲ指摘スベキモ之ト同時ニ先方再考ノ結果如何ニ依リテハ商議ノ余地ハ充分存スル趣旨ヲ明ニスルノ必要アルベシト考フト述べ、帝國政府ノ取ラントスル態度ヲ尋ネタルニ付徳川ハ何等知ル所ナキ旨ヲ答ヘ置キタル趣ナリ尚本件ニ関シテハ八日上院ニ於テ外務大臣相當詳細ニ政府ノ意向ヲ表明スルコトナルベシト云フ將又伊太利ノ態度ニ関シテハ中欧部長ハ多分大体ニ於テ英國側ト似寄リタル回答ヲナスノ外ナキコトト察シ居ル旨ヲ付言セリ

仏独伊白ヘ転電セリ

七二 五月九日(着)

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償ニ関スル提議ニ対スル回答振ニツ

キ意見申進ノ件

第三〇六号

在独大使宛閣下宛電報第九七号ニ関シ

独逸今回ノ提議ニ対スル回答振ニ付テハ目下御考慮中ト存

二 欧州復興及ビ対独賠償問題 七二 七三

想外ノ困難アリタリ、英國政府ハ今明日中ニ閣議ヲ開キ回答書ヲ作製スルヲ管ナルガ其ノ文旨ニ於テモ独逸提案ノ杜撰ナルヲ明ニスルニ於テハ独逸現内閣ニシテモ將又「ストレーゼマン」内閣成立ヲ見ルニシテモ多分談判ノ基礎トナルベキ新提案ヲ出スニ至ルベク、其ノ場合ニハ英、仏、伊ハ勿論日本ニモ参加ヲ請フベク、米國モ或形式ニテ参加センコト希望ニ堪エザル旨ヲ述べ、終リニ日本政府ハ独逸ノ提案ニ対シ正式回答ヲナスベキカヲ問ヘルニ付本使ハ未ダ何等承知セザルモ判明次第内示スベキ旨ヲ答ヘ置ケリ

七一 五月九日(着)

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル独逸提案ニツキラムソン中欧部

長ノ意見報告ノ件

第三〇四号

往電第三〇三号ニ関シ

七日徳川中欧部長「ラムソン」ヲ訪ヒ其意見ヲ叩キタルニ同部長ハ独逸提案ガ不当且ニ愉快ナルハ論ナシ而モ右ノ非外交的遣口ハ或程度迄独逸式ノ心理作用ニ依ルモノニシテ

ズル処本使ノ意見ヲ何等御参考迄ニ申進スレバ帝國政府トシテハ何等此ノ際右提議ニ対シテ意見ヲ加ヘラルコトナク単ニ take note スル旨ノ回答ヲ發セラルコト最モ機宜ノ措置ト思考ス 在欧州各大使ヘ転電セリ

七三 五月十日(着)

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償新提議ニ対スル英國政府ノ回答公

文案受領ノ件

別電

在英國林大使宛内田外務大臣宛五月九日着電報
第三〇九号

独逸ノ賠償新提議ニ対スル英國政府ノ回答公文
案

第三〇八号

五月八日徳川中欧部長ノ需ニ応シ往訪シタルニ同部長ハ独逸ノ賠償新提議ニ対スル英國政府ノ在英独逸大使宛回答公文案(別電第三〇九号)ヲ手交シ右ハ内密帝國政府ニ通告シタク且日本以外ニハ伊國政府ニノミ同様内告シ同政府ニ於テハ多分大体同趣旨ノ回答ヲ為スニ至ルヘシト想像セラルル処帝國政府ニ於テモ大体同様ノ筋ニテ回答セラルルヲ得ハ幸甚ナル趣付言スヘキ旨外務大臣ヨリ命セラレタリト

告ケ帝國政府回答全文決定ノ上ハ回示ヲ得ハ外務大臣ニ於テ満足トスヘキ旨ヲ申添タルニ付徳川ハ本使ニ報告ノ上早速全文ヲ閣下ニ電報シ且右ノ趣旨転達方取運フヘキ旨ヲ答ヘ置タリ就テハ帝國政府対独回答内告方御同意ノ上右全文御決定次第電報ヲ請フ(別電ハ米ヘ転電シ在欧各大使ヘ全文郵送ス)

在欧米各大使ヘ転電セリ

(別電)

在英国林大使筵内田外務大臣宛五月九日着電報第三〇九号
独國ノ賠償新提議ニ対スル英国政府ノ回答公文案

第三〇九号別電(極秘)

His Majesty's Government have given their careful attention to the memorandum Your Excellency communicated to me 2nd instant, and in which the German Government put forward their proposals for a settlement of question of reparations. This action on their part is well known to have been sequel of suggestion which I made in debate in British Parliament April 20th, and His Majesty's Government therefore have special in-

terest in the response returned to that appeal.

I can not conceal from Your Excellency that proposals of your Government have come as great disappointment, and that unfavourable impression they have made upon His Majesty's Government as well as on their Allies is one which in my opinion the German Government might and ought to have foreseen and therefore guarded against. Proposals are far from corresponding either in form or in substance to what His Majesty's Government might reasonably have expected to be made in answer to the advice I have on more than one occasion, ventured to convey to the German Government through Your Excellency, and to more direct invitation extended to them in speech referred to. Main grounds of this legitimate disappointment are following:

(1) The German Government offer, in total payment of their acknowledged debt, a sum which, falling far below the moderate amount forming the basis of the British scheme submitted to the Paris Conference January last, must have been known in advance to be altogether unacceptable to the Allied Governments.

Furthermore the payment of even this inadequate sum is made dependent on the issue of series of international loans, the success of which, in conditions predicted, must be largely speculative. So much so that scheme proposed by the German Government actually contains provisions dealing with contingency of the loans not materialising. Moreover arrangements proposed under this head involve financial conditions less burdensome to Germany than if loans were to be successful, so that no real incentive is thereby held out for her to attempt to raise them.

(2) The failure of the German reply to indicate with greater precision the nature of guarantees which they are disposed to offer is more particularly to be regretted, as the Allied Governments, instead of receiving concrete and substantial proposals in this respect, are confronted with vague assurances and references to future negotiations, each in a business transaction of this kind are lacking in practical value.

The disappointment is enhanced by the belief which His Majesty's Government would like to entertain that indications are to be found in the German memo-

randum that the German Government recognize responsibility resting upon them to make earnest effort to discharge loyally their obligations under the Treaty of Versailles in the manner which the Allies could regard as both equitable and sincere. If Germany did intend to open way to the effectual and speedy solution of a problem, failure to settle which is gravely disturbing the political and economic condition of Europe, and indeed of the whole world, then it seems unfortunate that she should not have shown deeper appreciation of lines on which alone can any such settlement be sought.

His Majesty's Government, for their part, are persuaded that in her own interest, Germany will see advantage of displaying greater readiness to grapple with the realities of the case, and discarding all irrelevant or controversial issues will proceed to reconsider and to expand their proposals in such way as to convert them into feasible basis of further discussion. In such discussion, His Majesty's Government will, at a suitable moment, be ready to take part by side of their Allies with whom they share, exactical interest in this question which they have no intention to abandon as well as

the desire to terminate the situation of international peril. But they can not conceal from the German Government that the first step towards the realisation of any such hope must be recognition by Germany that a contribution much more serious and much more precise is required than any which has yet been forthcoming.

七四 五月十日（着） 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

賠償ニ関スル対独回答ニツキ意見具申ノ件

第三一〇号

英國政府ヨリ希望申出ノ次第モアリ英國政府ノ回答ハ論旨モ全体ニ於テ妥当ト認メラルルニ付キ措辞乃至語呂等ハ如何様ニモ緩和ノ途アルヘキニ付キ帝國ノ回答ハ大筋ニ於テ英國回答ト平行スル趣旨ノ回答ヲ発セラルルコト然ルヘキカト思考ス

七五 五月十二日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）

独國ノ賠償提議ニ対スル日本政府ノ回答覚書

内示方訓令ノ件

1923, to Japan, the United States, Great Britain, France, Italy and Belgium, covering the whole question involved in the payment of reparations.

The Japanese Government are unable, either in respect of the total amount of reparations or the method of their payment and guarantee, to give consent to the scheme of reparations payment which constitutes the main part of the above-mentioned proposal.

In view of the fact that Japan's actual interest in the present question is not so great and vital as that of the other Allies addressed, the Japanese Government will refrain from expressing their opinion on the particulars of the new German proposal. They wish however to express their strong desire that the German Government will proceed to take proper steps with a view to facilitating a speedy and amicable settlement of the whole question of reparations on an equitable basis.

（右邦文）

覚書

帝國政府ハ五月二日付覚書ヲ以テ独逸國政府カ日本國亜米利加合衆國英吉利國仏蘭西國伊太利國及白耳義國ニ対シ賠償

別電 五月十二日内田外務大臣発在英國林大使宛電報第一三四号
五月十二日閣議決定セル独國ノ賠償會議ニ対スル対独回答覚書

第一三三三号

独逸今回ノ賠償提議ニ対スル帝國政府ノ回答覚書別電第一三四号ノ通十二日閣議決定セルニ付右至急任國政府ニ御内示置キ相成度ク該覚書ハ五月十五日在独日置大使ヨリ独逸政府ニ交付ノ手筈ナリ

本電本大臣ノ訓令トシテ別電ト共ニ仏伊白各大使ニ転電アリタシ

本電別電ト共ニ在独大使ニ転電アリタシ

（別電）

五月十二日内田外務大臣発在英國林大使宛電報第一三四号

五月十二日閣議決定セル独國ノ賠償提議ニ対スル対独回答覚書

第一三四号 別電

MEMORANDUM.

The Japanese Government have given the most careful consideration to the new proposal made by the German Government in a Memorandum of May 2,

償支払ノ全般ニ亘リ為シタル新提案ニ付キ最モ慎重ノ考查ヲ加ヘタリ

該提案ノ骨子タル賠償支払計画ハ其総額ニ付テモ其支払及保証ノ方法ニ付テモ共ニ帝國政府ニ於テ直ニ之ニ賛同ノ意ヲ表スルコト能ハス

帝國政府ハ本件ニ関スル實際上ノ利害カ他ノ連合國ノ如ク緊切著大ナラサルニ顧ミ此際該提案ノ内容ニ亘リ意見ヲ表明スルヲ避ケント欲スルモ独逸國政府カ公正ノ見地ニヨリ更ニ適當ノ方法ヲ講シ以テ賠償問題ノ迅速圓滿ナル解決ニ達スルノ端緒ヲ開カレンコトヲ望ンテ止マサルモノナリ

（欄外註記）大正十二年五月十二日閣議決定

七六 五月十四日 在伊國藤井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

独國ノ賠償提議ニ対スル伊國政府ノ回答書ヲ

伊國外務省ヨリ送付越ノ件

別電 五月十四日在伊國藤井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第一〇一号

独國ノ賠償提議ニ対スル伊國政府ノ回答要約

第一〇〇号

（五月十五日接受）

往電第九八号ニ関シ伊國外務大臣ヨリ在当地独逸大使ニ宛

テタル昨十三日付伊国文ノ回答書写(中版四頁)ヲ十四日
外務省ヨリ送付シ来レリ右内容要約別電第一〇一号ノ通ナ
ルカ本日正午版ノ当地各新聞ハ何レモ其全文ヲ已ニ掲載シ
居レリ原文郵送ス

在欧米各大使、「ローザンヌ」へ暗送セリ

(別電)

五月十四日在伊国藤井臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第
一〇一号

独国ノ賠償提議ニ対スル伊国政府ノ回答要約

第一〇一号

(五月十六日接受)

独逸ノ提議ハ連合國ニ於テ決定的討議ノ基礎トスルニ足ル
性質ノモノニ非ズ中欧ニ生ジタル危険状態ヨリ脱出スル為
独逸政府ヲシテ合理的且實際的ノ提議ヲナサシメントシテ
従来屢々主張スル所アリシニヨリ予期スル所アリシニ拘ハ
ラズ独逸ノ措置ハ問題ノ平和的解決ニ何等ノ進境ヲ示サザ
ルナリ伊国政府ノ見解ハ明白ニシテ倫敦及巴里ノ両會議ニ
於ケル其提案ノ示スガ如ク自國ノ經濟財政上ノ現況ニ鑑ミ
賠償問題ト連合國間ノ戰爭債務ノ問題トハ常ニ密接ニ関連
セルモノト見做サザルヲ得ズ而モ被侵入地ノ復旧費ヲモ考
慮シテ此等ノ問題ハ成ル可ク急速ニ之ヲ解決スベキモノト

著シク劣レルコトハ暫ラク之ヲ措クトスルモ右賠償額ノ全
部支払ヒニ充當セントスル國債借款ハ単ニ其方法手段トシ
テ指示セラレタルニ止マリ其募集及結果ニ付の確ニ報示ス
ル所ナク保障及担保ノ具體的指示ヲ欠キ且何等其實際的提
供ヲ信ズルニ足ルモノナシ随テ独逸ノ提議ハ単ニ一般的ノ
討議スラナスニ足ルモノニ非ズ提案ノ不充分ナルコトハ伊
國政府ノ遺憾トスル所ナリ何ントナレバ問題ノ解決ヲ遅延
シ一般ニ慘害ヲ与フベク独逸ハ其内政上ノ或ル潮流ニ制セ
ラレテ義務ノ履行ヲ免レントスベシトノ説ヲ強ムルコトナ
キヲ保セザルヲ以テナリ事情右ノ如クナルヲ以テ伊國政府
ハ独逸ノ提案ガ時局ニ何等ノ具體的變化ヲ齎スモノニ非ザ
ルコトヲ認メ欧州ノ平和ト經濟ノ一般の利益ノ為將又独逸
自身ノ利益ノ為遠カラザル将来ニ於テ独逸政府ガ更ニ新規
ノ決定ヲナシ其内容ト其精確ナルコトニ於テ伊國政府ガ連
合諸國ト共ニ有益ニ審議シ得ル如キ提案ヲナサンコトヲ勸
告ス

在欧米各大使、勞山へ郵報セリ

七七

五月十五日

在ベルギー國安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

主張セザルベカラズ右ノ必要ハ賠償委員會ノ討議ニ於ケル
伊國ノ態度及巴里會議後生ジタル各事件ニ於ケル其態度ヲ
明白ニ説明スルモノニシテ此最モ重大ナル問題ノ解決ニ對
スル伊國ノ利害ト要求トガ決シテ連合國ノ何レノ夫レニ劣
ルモノニ非ザルニ依ルモノナリ伊國ハ一般經濟ノ整理ニ必
要ナル犠牲ニ付キ自國ノ負担ヲ忍ブノ覚悟アルハ勿論ナル
モ国力当然ノ限度ニ於テ得ベキ管ノモノヲ越エテ犠牲ヲ負
フコトニ同意スルヲ得ズ独逸ノ賠償額中伊國ニ割當テラレ
タル割合ハ(独逸ノ与國タリシ)小國ノ賠償ニ於テ他國ヨ
リモ一層多クノ割當ヲ留保セラレ居ルコトヲ基礎トシテ定
メラレタルモノナルガ伊國ハ寛容ト節制ノ精神ニ依リ今日
迄独逸ガ(其与國タリシ小國トノ關係ニ於テ)条約上有ス
ル平等ノ責任ヲ主張セズ大イニ讓歩スル所アリシコトヲ忘
ルベカラズ巴里會議ニ於ケル英國案ニ伊國政府ノ同意シ得
ザリシハ独逸政府ノ夙ニ知悉セラルル所ニシテ「ボナーロ
ー」ノ覚書ハ撤回シ得ザル伊國ノ要求ヲ充分ニ顧慮セザリ
シモノノ如シ茲ヲ以テ五月二日ノ独逸覚書ガ右英國案ノ提
議ニ甚ダシク劣レルモノアルヲ見テ實ニ一驚ヲ喫シタリ提
議セラレタル賠償額ガ合理的のニ期待セラレタル所ニ比シテ

日本政府ノ對独回答内示ニ對スルベルギー外
相ノ謝意並ニ独国賠償問題ノ前途ニ關スル意
見表明ノ件

第九五号

(五月十六日接受)

在英大使宛電第一三三号五月十五日早朝到著本使ハ直ニ
白国外務大臣ニ面會ノ上帝國政府ノ對独回答ヲ内示セル処
同大臣ハ一読ノ後先ツ内示ノ好意ヲ深謝シ次テ日本政府ニ
於テ右ノ如キ回答ヲ發セラルルコトハ白國ニ取リテモ頗ル
好都合ナル旨ヲ述ヘ今後トモ兩國ハ十分ナル協戮ノ下ニ本
問題ノ解決ニ努力シタシト付言セラル尚同大臣ハ更ニ本使
ノ問ニ答ヘ独逸カ仏白英等ノ回答接手後如何ナル態度ニ出
ツヘキヤ未タ何等ノ情報モナク米國モ亦俄ニ不干渉ノ態度
ヲ離脱スル模様ナク同國ノ對独回答カ何時又如何ナル様
ニテ為サルルカ是又知ルニ由ナク本件ノ前途痛心ニ堪ヘス
將又假ニ独逸ヨリ再提議アリトスルモ夫レ以前ニ英伊日仏
白ノ間ニ大体ノ意見交換ノ必要アルコトト思考スルモ一方
仏白ノ国内事情ヲ考慮スルトキハ之ニモ多少ノ難關アリ差
當リハ独逸ノ態度ヲ凝視スルニ止マルヘキカ云々
在欧各大使及在米大使へ転電セリ

七八 五月十五日（着） 在英国外務大臣宛（電報）

賠償ニ関スル英国ノ対独回答文独国側ニ交付

ノ件

第三三三三号

往電三〇九号ニ関シ

英国回答文ハ本月十三日在英独逸大使ニ交付セラレタル旨
公表セラレタルガ全文前電ト相違ナシ

七九 六月六日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

賠償ニ関スル独国新提案賞書要領報告ノ件

第一三三五号

（六月八日接受）

独国新提案英訳要領下ノ如シ

I

After full and careful consideration, Germany has stated her sincere belief as to her capacity to make payment for reparation. The German Government would not be acting fairly, and they would not bring a real solution any nearer if, only for the sake of a temporary alleviation of their political difficulties, they were to

promise more than, in their judgment, the German people can with the utmost effort perform.

Nevertheless the question of Germany's capacity is one of facts on which different opinions can be held and the German Government admit the difficulty of arriving at any secure estimate in present conditions. For this reason they have already offered to accept the decision of an impartial international body as to the amount and method of payment. Germany can give no stronger proof than this of her determination to discharge reparations.

The German Government are also ready to supply all available information necessary in forming a reliable judgment on Germany's capacity to pay. They will if requested throw open to inspection all their financial records and furnish any details that may be desired concerning the resources of German industry and business.

II

The German Government made reference to the flotation of big loans, in order that large capital sums might accrue at the earliest possible moment to these Powers to whom reparation is due. As long as loans

on a great scale prove impracticable, they are ready to substitute a scheme of annuities.

III

1. The railway system of the Reich with all its appurtenances will be separated from the other property of the Reich and held in a separate fund, the accounts of which would be independent of the general financial administration and under its own control, and obligations will be issued without delay up to an amount of ten milliard gold marks which a first pledge on the assets of this administration and carrying interest at five per cent. as from July 1, 1927, thus securing an annual payment of five hundred million.

2. To secure a further annual payment of five hundred million as from July 1, 1927, the German Government will without delay subject the entire business, industry, banking, trade, traffic and agriculture of the country to a guarantee in the form of a first pledge of ten milliard on their real estate, whether buildings, dwellings, lands or forests. Annual dues of five hundred million would be levied either indirectly in the form of a general tax on all classes of property or they would be borne directly by the objects specially pledged.

3. In addition will be pledged as security for the annual payments the customs of the import of consumable articles other than necessities, the excise on tobacco, beer, wine and sugar, and the receipts of the spirits monopoly. The average gross revenue from these customs and excise receipts of the years preceding the war reached about eight hundred million. Their yield in gold marks has now sunk to approximately one quarter by reason of Germany's loss in territory and population and her reduced consumption. With economic recovery of Germany, however, it will automatically increase.

4. In a matter so vast and complicated, real progress can not be made by exchange of written documents, but can only be achieved by word of mouth at a conference table, Germany's facility to pay depends on the character of settlement as a whole. The method of payment can only be arranged in direct consultation with those who are to receive payment. The guarantees can only be worked out with collaboration of those whom they are intended to serve. For the solution of all these questions an oral discussion is essential.

在欧米各大使へ郵送

ハ〇 六月七日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独国外務次官ヨリ賠償ニ関スル新提案覚書提
出ノ件

第一三四号

(六月八日接受)

六月七日午後外務次官来訪簡單ナル新提案覚書ニ英仏訳文添付、本使ニ手交シ右ハ仏白ノ攻撃の回答ニ対シ提議スル次第ニハアラズ日英伊ノ友好的の勧告ニ対シ回答スル趣旨ニシテ爭議ノ諸点ニ論及スルヲ避ケタルモノナリト付言シ尚帝国政府ノ同情ニ富メル過般ノ回答ニ対シ深く感謝スル旨及此際提案達成ニ協力アランコトヲ切望スル旨申述べタリ

在欧米各大使へ暗送セリ

八一 六月九日 在ベルギー国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独国ノ賠償ニ関スル新提案ニツキベルギー外
相トノ談話報告ノ件

第一二二二号

(六月十日接受)

九日朝当国外務大臣ニ面会シタルニ左ノ通話レリ

不日主要関係国ニ回付セラルヘク從テ形勢ノ変化ハ其ノ内漸次判明シ来ルヘシト信セラルルカ此ノ際更ニ本使ノ観測ヲ左ニ披瀝シ何等御参考ニ供ス

(一) 往電第四六四号英首相ノ「ステイトメント」ハ閣員中異論アリ最初ニ於ケル対仏強硬ノ形緩和セラレタリトノ報道事実ト認メラルルニ顧ミ対独回答自身モ思ヒ切リ仏白ヲ追窮スル程ノ内容ノモノニ非サルヘキコト英国閣内及閣外ニ親仏論者頗ル多数ナルコト他方仏国側ニ於テハ仏国カ現在ノ態度ヲ持續シ若ハ更ニ引続キ今日以上ノ圧迫ヲ加フルニ於テハ独逸ハ結局兜ヲ脱クニ至ルヘシト観測セラレ居ルコト等ニ照シ今回ノ英国ノ対独回答起草右ニ関連シテ今後引続キ試ミラルヘキ賠償問題及「ルール」問題等ニ付仏白ヲ英国ノ見解ニ引付ケントスルノ企テハ仏国一般カ其ノ從來ノ方針ノ不利ヲ自覺シ「ポアンカレイ」内閣ノ更迭ヲ見サル限り其ノ成功覚束ナシト観測セラル

(二) 仏国ノ「ルール」占領ノ結果ハ独逸ヲシテ賠償ノ能力ヲ益々減却セシムル次第ナルカ今日ニ於ケル仏国ノ態度ヨリ見レハ口ニハ何ト唱ヘ居ルトスルモ賠償ヨリモ安全ヲ

一、賠償及「ルール」問題ニ関シ七日独逸ヨリ領収シタル文書ニ記載シタル金額ハ驚クベク少額ニシテ到底承諾スベカラザルモノナルコトハ仏英トモ同感ナルガ故ニ右兩國ト議リ伊国トモ相談シ成ルベク共同文書ヲ以テ独逸ニ回答セント欲シ折角交渉中ナルガ今迄ノ模様ニテハ成功ノ見込ミニ遠シ

二、「ザール」調査ノ問題ニ関シテハ白国理事ハ勿論英国案ニ反対スルヲ要スルモ最近倫敦ヨリノ内報ニ依レバ英国政府ハ「ザール」ニ於ケル其後ノ改革ニ鑑ミ多分原案ヲ提出セザルベキ様子ナレバ二十九日ノ連盟理事会ニ於テ差シ当リ風波ヲ生ゼザルベシ

八二 七月二十日(着) 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル英国政府ノ対独回答案ニ関スル
観測報告ノ件

第四七六号

曩ニ往電第一一九号ヲ以テ仏白ノ「ルール」占領ニ関スル時局ノ卑見申進シタルカ今回英国政府起草ノ対独回答案ハ

選フモノト見ルノ外ナク即チ安全ノ為ニハ賠償ヲ顧ミル暇ナキモ賠償ノ為ニ安全ヲ棄ツルモノニ非スト謂ハサルヲ得ス然ラハ右仏国ノ安全ノ為ニ保障条約ヲ締結スルハ仏国ヲ「ルール」ヨリ退カシメ得ヘキヤト謂フニ本使ノ見ル所ニテハ然ラス「ヴェルサイユ」条約締結當時ニ於ケル英米仏三国保障条約ハ本使ノ見ル所ニテハ仏国トシテバ寧ロ余儀ナク調印シタルモノニシテ内心ニ於テハ萊因川ヲ以テ国境トスルコトヲ希望シ居タル次第ナルヘク右条約ノ反故トナリタルコトハ仏国ノ安全保障ノ為ニ「ルール」占領ノ如キ対独強制手段ヲ執ルノ障碍ヲ消滅シタル結果トナレルニ付仏国トシテハ内心却テ之ヲ幸トナシ居ルナルヘシ從テ右同様ナル保障条約ヲ結フコトニ依リ仏国ノ安全ニ対スル觀念ヲ満足セシムルコトハ不可能ナリト観測ス

(三) 加之仏国ニ於テハ「ルール」占領ノ結果其費用ハ其獲得スルトコロ以上ニ上リ居ルモ其富有ナル石炭、鉄工場ノ存在ニ顧ミ之ヲ独逸ヨリ引離シタル後五年乃至十年ヲ經過スルニ於テハ從來ニ於ケル損害ヲ償ヒ得ルノミナラス却テ多大ノ収入ヲ得ルノ結果トナリ經濟上ニモ結局仏国

ノ利益トナルベキ事ヲ信シ居ルヤモ計ラレズ

四 英國側ニ於テハ仏国カ今日ノ態度ヲ持續スルニ於テハ独逸ハ結局倒壊ニ至ルヘク独逸倒壊スレバ英國ハ産業上多大ノ影響ヲ蒙ルヘク尚歐洲今日ノ状況ハ英國ノ貿易及産業上非常ニ不利ナルニ依リ一日モ速ニ歐洲ノ安定ヲ欲スルノ事情アリ之等ノ事情ヨリ仏ヲ自己ノ見解ニ引付ケ時局ノ速ナル解決ヲ希望スルモサレバトテ之ヲ仏ニ対シ強請スルノ力ナク他方仏國側ニハ前頭ノ事情アリ而シテ独逸ノ降伏ハ仏白ノ協同ト現在ノ行動ヲ繼續スル事ニ依リ達シ得此ノ上英國ノ援助ヲ殊更必要ト認メ居ラサルニ依リ之愈々前述(一)末段ノ觀測ヲ確ムルモノト謂フヘシ

(五) 以上ノ通り時局ハ益々困難トナルヘキトコロ帝國トシテハ一日モ速ニ歐洲ノ安定ヲ希望スル次第ナルモ賠償問題ニ関シテハ其利害他國ニ比シ頗ル稀薄ナルニ付此際出来得ル限り右爭乱ノ渦中ニ捲込レザル方針ヲ採ルコト得策ニシテ從テ英國政府ノ起草スヘキ對独回答案ノ如キ帝國側ニ廻付シ其意見ヲ求メ来タルヤ否ヤ不明ナルモ廻付シ来ラズトテ特ニ其廻付ヲ運動スルカ如キハ勉メテ避ケタキ所ナリ本問題ニ関シ主要連合國會議ノ再開アル場合又

(別電一)

在英國林大使發内田外務大臣宛七月二十二日着電報第四八四号

独國賠償新提案ニ對スル連合國側回答ニ關スル英國政府通牒

第四八四号

独逸國政府カ六月七日付通牒ヲ以テ連合國ニ對シ賠償問題解決ノ為メ新提案ヲ為シテヨリ六週間ヲ經過セリ而テ其提案ノ主要ナル点ハ左ノ三ナリトス

(一) 独逸ノ支払能力問題ヲ公平ナル國際的審査會ノ議ニ付シ其為シタル金額及支払方法ニ關スル如何ナル決定ヲモ受諾スヘキコト

(二) 支払担保トシテ特定ノ保障ノ指定

(三) 詳細ナル計画ヲ建ツル為メ會議ノ開催

英國政府ノ見ル処ヲ以テスレハ本件独逸國提案ハ其当否如何ハ暫ク措キ連合國ニ於テ協同回答ニ復歸ノ為メ慎重ノ考慮ヲ加フルニ足ルヘキ充分ノ進況ヲ示セルモノト云フヘク此点ハ伊太利國政府ノ同意スル処ナルモ仏蘭西國及白耳義國政府ハ独逸國力消極的抵抗ヲ決定のニ抛棄シタル後ニ於テノミ独逸國トノ交渉ニ入ルヘキ旨ヲ陳述セリ英國政府ハ該条件ノ精細ナル意味ヲ確知センカ為メ仏蘭西國及白耳義

同様ナリ

在歐洲各大使へ暗送セリ

八三 七月二十二日(着) 在英國林大使發内田外務大臣宛(電報)

独國ノ賠償新提案ニ對スル英國政府起草ノ連

合國回答案報告ノ件

別電一

在英國林大使發内田外務大臣宛七月二十二日着電報第四八四号

独國賠償新提案ニ對スル連合國側回答ニ關スル

英國政府通牒

二

在英國林大使發内田外務大臣宛七月二十二日着電報第四八五号

英國政府起草独國政府宛連合國側回答案

第四八三号(極秘)

二十日夕英國政府ヨリ別電英國政府起草對独同文回答案及右ノ「カバリングノート」タル關係連合國ヘノ同文公文ヲ送付シ越シタリ右寫為念郵送ス

尚右公文及回答案ハ当分絶対秘密ニ取扱方申越シ居ルニ付發表ノ旨電報スル迄右御含ヲ以テ御取扱ヲ請フ在歐各大使へ転電セリ

國政府ニ對シ独逸政府ノ執ルヘキ行動及右行動ノ執ラレタル場合ニ於ケルルール將來ノ地位ニ關シ幾多ノ質問ヲ發セル処右ニ對スル回答ハ今尚ホ脱却シ得サル不確實性ヲ全然除去スルニ足ラサリキ

其間賠償問題ハ停頓シ同時ニ特定一二國ノ必要トスル行動ニ對シ不作為又ハ拒絕ノ理由乏シトセス國際的狀勢ハ週ヲ重ネ日ヲ経ルニ從フテ險惡化シツツアリ而テルールノ占領ハ其概念上正当ナリヤ否ヤヲ度外視スルモ予期ノ効果ヲ收ムルニ失敗セリ連合國ノ結合ハ弛緩セリ適當ナル計画ニ依ル独逸國ノ支払實現セラレス独逸國通貨ノ不斷ノ下落ハ独逸國ヲシテ千九百二十一年五月ニ定メタル支払計画ニ依ル責務ヲ尽ス事能ハサラシメタリ右ノ如キ狀勢ハ或ハ主トシテ独逸國政策ノ助成セシ処ナリヤモ測リ難キモ吾人ニ關係ヲ有スル処ハ其原因如何ニ非スシテ寧ロ其結果ニ存ス此点ニ對シ英國政府ハ連合國ノ注意ヲ喚起スルモノナリ

今年一月巴里會議ニ於テ英國政府ノ主張セシ見解ハ今日ニ於テモ尚主張セントスル処ナルカ右ノ見解ニ依レハ独逸國ヨリ連合國ノ受領スル權利ヲ有スル支払ヲ獲得センカ為メニハ独逸國ノ信用ノ復興通貨ノ安定財政ノ均衡及生産力ノ

振興ヲ必要トス然ルニ独逸国ノ工業生活ノ最モ發達セル地方カ軍制ノ下ニ置カレ政治的紛擾ノ活舞台トナリ居ル限り本問題ノ解決ヲ見ル事極メテ困難ナリ如斯手段ニ依リテ独逸国ノ抵抗力ヲ碎破スルハ或ハ可能ナランモ右ハ連合國ノ政策ノ目的トスル最後ノ成功ヲ齎ラスヘキ回復ヲ犠牲ニスルモノト云ハサルヘカラス

或ハ所謂独逸国ノ消極的抵抗ニシテ目的達成ノ主タル障碍ナランカ又或ハ消極的抵抗ノ抛棄ニシテ進歩ノ第一階梯ナリトセンカ英國政府ハ連合國ト協調シテ連合國カ既ニ独逸國政府ニ対シ試ミタルカ如キ圧迫ヲ独逸國政府ニ加フル充分ノ準備アリ是六月七日付独逸國通牒ニ対スル別添連合國協同回答案中ニ此提案ヲ確定的ニ挿入シタル所以ナリ然レトモ此計畫ニシテ真ノ成功ノ希望ヲ以テ遂行セラレンカ為ニハ左ノ二条件ヲモ亦同時ニ成就セシメラレサルヘカラス即チ

第一 独逸國ノ支払義務ヲ決定シ依テ賠償問題ヲ処理センカ為メニハ既ニ定メラレタル独逸國ノ支払能力ニ関シ新ニ且ツ慎重ナル再考査ヲ加ヘサルヘカラス

第二 ルールヲシテ國際紛争ノ地方タラシムル事ナク豊富

履行ヲ為サシムヘキ有利ノ地位ニ到達スヘク尤モ独逸ハ條約ノ条項ニ依リ意見ヲ聴取セラルル權利アルヘシ
右調査機關ノ構成ハ連合國政府ノ協議ニ依リ決定セラルヘキ問題ニシテ連合國政府及輿論ノ信頼ヲ有スル有能ノ士ヲ選取スルニ意見ノ一致ヲ見ルハ困難ナラサルヘシ又公式ナルト非公式ナルトヲ問ハス右調査ニ米國ノ協力ヲ有利トナス事言ヲ俟タス此点特ニ英國政府力連合諸國ニ内密勸告セントスル所ナリ若シ英國政府ニシテ幸ニ此ノ点ニ至ル迄連合國ノ同意ヲ得ルニ至ラムカ英國政府ハ直ニ本計畫ヲ実行スル為メ統イテ執ラルヘキ精密ナル措置ニ関スル更ニ精細ナル論議ニ入ルニ吝ナラサルヘシ但シ英國政府ハ今直チニ確定的ナル提議ヲ為スヲ差控ヘントス是經驗ニ依リ生硬且急速ナル計畫ハ一般的協定ヲ促進スルヨリモ寧ろ是ヲ妨クルコト多キヲ知ルヲ以テナリ

独逸國政府カ消極的抵抗廢止ニ関スル勸告ヲ容レタル場合ルールノ將來ノ地位ニ関シ一ノ問題存スヘシ英國政府ハ仏蘭西國及白耳義國政府カ斯克ノ如キ事態ニ於テハ占領ノ性質ニ迅速且實質的ノ變化ヲ与ヘサルヘカラサル事ルール並去ル一月以來占領セラレタル其ノ他ノ地ニ駐屯スル占領軍

ナル生産地方トナラシムルヲ得ル状態ニ回復セシムル為メ提案ヲ為スヘキコト

第一点ニ関シテハ千九百二十一年ニ定メラレタル賠償ノ數字ハ今日ノ実状ニ適合セス而テ連合國ニ最モ緊要ナルハ連合國側ニヨリ終局決定セラルヘキ金額如何ニアラスシテ独逸國政府ニヨリ正当且ツ可能トシテ受諾セラルルノ点ニアリ而モ状勢ハ改善ノ緒ヲ見ルコトナク遲滞ヲ重ヌルト共ニ更ニ惡化スヘシ最後ノ通牒ニヨル手續ヲ繰返スハ現金又ハ現物ニヨル實質的ノ提供ヲ受ケサル限り意ニ滿タサル且ツ反抗ノ色アル屈服ヲ出現セシムルノミニテ何等ノ満足ヲ持チ来ス所以ニアラス

独逸國政府ハ最近ノ通牒ニ於テ独逸ノ支払能力並ニ支払方法ニ関シ公平ナル機關ニヨリ調査セラレン事ヲ求メタリヴェルサイユ條約第二百三十四條ハ賠償委員會ニ依リ宣言セラレタル独逸ノ支払金額ハ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ明白ナル承認アリタル場合ニ之ヲ減額スルヲ得ヘキ旨ヲ定ム而テ各國政府若クハ賠償委員會ニ於テ其希望スル公平ナル専門委員ヲ會議ニ招致スルヲ妨ケス如斯ニシテ賠償委員會及各國政府ハ独逸國政府ヲシテ其通牒ニ含メル約定ノ

ノ數ヲ成ルヘク速カニ減少セシメサルヘカラサルコト及保証ニシテ有効ナル作用ヲ為スニ至リタルトキハ終局的ニ完全ナル撤兵ノ誓言ヲ差控フヘキニアラサルコトニ付キ同意ヲ与フルニ至ルヘキヲ信ス是同同時ニライン地方委員ノ名ヲ以テ發布セラレタル普通人民ヲ強制シ人ト物トノ自由ナル移動ヲ妨ケツツアル諸種ノ措置ハ当然廢止又ハ緩和セララルヘク出来得ル限り寛大ナル大赦宣布セラレ放逐セラレタル人民及官吏ハ適當ナル保障ノ下ニ帰還スルニ付便宜ヲ与ヘラルヘシ

独逸國政府ニ対スル回答草案中ニ本通牒ニ記載スル更ニ精細ナル指示ヲ包含スルハ必要ナリトモ望マシキコトナリトモ思惟セラレス連合國ノ一致ヲ維持スルコトノ最モ重要ナルヲ惟ヒ右一致ニ依リテノミ速ニ本問題ノ解決ヲ見ルニ至ルヘキコトヲ確信シ英國政府ハ連合國ノ受諾シ得ヘキコロナリト信スル精神及用語ヲ以テ回答草案ヲ起草シタリ英國政府ハ勿論其説明シ且弁護センコトヲ欲スル政策ノ大綱領ニ背馳セサル限り連合諸國ノ適當ト思惟スル修正提議ニ対シテ喜ンテ是ニ考量ヲ加ヘントスルモノナリ

若シ本通牒ニシテ一般的賛成ヲ得ンニハ是ヲ速ニ發送スル

コト顯著ナル利益ヲ齎ス所以ナルカ如シ英國政府ハ遲滞ナキ決定ニ至ラムコトヲ熱心ニ希望スルモノナルコトヲ表明ス

本通牒ハ連合國ノミ宛テラレタルモノナルカ更ニ詳細ナル了解ヲ得ムカ為ニ英國政府ノ連合國ト協同シテ行ヒ得ルニ至ラムコトヲ希望スル計畫ヲ付言セリ右計畫ノ概要左ノ如シ

一、独逸國政府ハ消極的抵抗ノ政策放棄ヲ約スルコト
二、消極的抵抗廃止ノ後ルールノ民政回復及同地方ヨリノ漸進的撤兵ニ備フル為手段ヲ講スルコト

三、連合國政府及賠償委員會ニ對シ各別ニ独逸ノ支払能力及支払方法ニ関シ意見ヲ具申スル任務ヲ有スル公平ナル専門家ノ機關ヲ組織スルコト米國専門家ノ協力ヲ求ムルコト並ニ諮問ヲ受ケ意見ヲ聴取サルヘキ独逸専門家ニ関スル協定ヲナスコト

四、前項ノ機關又ハ同様ノ構成ヲ有スル一ノ機關ヲシテ独逸國ヨリ同盟國ニ提供スヘキ經濟的担保及保障ニ関シ賠償委員會ニ意見ヲ具申セシムルコト

五、會議又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ一般的ニシテ且最終ナル

ニ関スル或ル種ノ提議ヲ含メル同文通牒ヲ發セリ

右通牒ニ對シテハ仏蘭西國及ヒ白耳義國政府ハ協同ノ行動ヲ執リ伊太利國英國及ヒ日本國政府ハ別箇ノ行動ヲ執リテ各別ノ回答ヲ發セリ右等ノ回答ハ独逸國ノ提議ヲ受諾シ得ヘカラスト目スル点ニ於テ合致セリ而シテ右独逸提案ニ對スル主要ナル批評ハ賠償支払トシテ提言セラレタル總額、支払方法及ヒ提供セラレタル保障ハ何レモ適當ナラス且ルール撤兵迄ハ独逸人ノ消極的抵抗ヲ繼續スヘシト做サルヲ以テ問題ノ解決ハ其如何ナルモノタルヲ問ハス悉ク繫テ右撤兵問題ニ存スト云フニアリタリ

斯クノ如キ提議ニ對スル不評ハ茲ニ独逸國政府ノ之ニ對スル態度ヲ再考セシムルニ至リ同政府ハ六月七日連合諸國ニ對シ第二ノ通告ヲ發シタリ

該覺書ニ於テ独逸國政府ハ賠償義務履行ノ決意ヲ確認シ支払額並ニ支払方法ノ問題ヲ公平ナル國際審判ニ付スル前回ノ提議ヲ繰返シ而シテ右ノ機關ニ對シ審査ヲ行フ為メ可能ナル一切ノ報道及援助ヲ与フ可キコト並ニ其到達セル決定ヲ受諾スヘキコトヲ約セリ更ニ独逸國政府ハ斯クシテ定メラレタル債務ノ規則正シキ支払ニ関スル特定ノ担保保障ヲ

財政問題解決ノ妥當案ヲ審議ノ為メ成ルヘク遲滞無ク連合國間ノ討議ヲ開始スルコト

六、独逸國ノ連合國ニ提供スヘキ經濟的担保及保障ニシテ有効ナル作用ヲ為スニ至リタルトキハ直ニヴェルサイユ條約ノ規定スル限界ヲ超ユル一切ノ独逸國領土占領ハ廢止セラルヘシ

英國政府ハ共同利益ノ為メ最早積極的行動ヲ遲延セシムルハ安全ヲ維持スル所以ニ非サルコトヲ信シ且本提議力判然タル進展ヲ促進スルニ資スルコトアランコトヲ希望シ連合國ニ前記ノ提議ヲ敢テ提出ス英國政府ハ本通牒ニ於テ保障ノ点ニ關シテハ之ヲ論セス然レトモ考慮スルコト望マシト思惟セラルル問題アリタルトキハ同問題ニ對シ同情アル考慮ヲ払フニ吝ナラサルコト既ニ表明シタルカ如シ

(別電二)

在英國林大使發內田外務大臣宛七月二十二日着電報第四八五号

英國政府起草独逸國政府宛連合國側回答案

第四八五号

(七月二十二日接受)

五月二日独逸國政府ハ亞米利加合衆國、白耳義國、仏蘭西國、大不列顛國、伊太利國及ヒ日本國ニ對シ賠償問題解決

提議セリ尤モ右ハ現在ヨリ四箇年ノ支払猶予ノ容認ヲ包含セリ最後ニ独逸國政府ハ是等一切ノ問題解決ノ為メ独逸國モ言論討議ニ参加スヘキ一ノ會議開催方ヲ提議セリ

独逸國今回ノ通牒ハ消極的抵抗ニ何等言及スル所ナシト雖モ是レ其ノ特別ノ重要ヲ認ムルヲ忘レタルニ非スシテ本通牒力連合國政府ニ對スル回答トシテ試ミラレタルニ鑑ミ連合國政府ノ各回答力同伴ヲ記述セサリシニ抛ルモノト思考セラル

連合國政府ハ文書上ノ論争並國際的紛糾ノ狀態ヲ終熄セシメンコトヲ熱望シ此等各事項ニ付キ其意見ヲ開示セントスヴェルサイユ條約ニ於テ同盟及連合國政府力戰爭中独逸國ニ依リ加ヘラレタル一切ノ損失及損害ニ對シ独逸國力全責任ヲ有スルヲ確認シタルモ独逸國ノ減少セル資源ヲ考量シ独逸國ヨリ右損失及損害ノ完全ナル賠償ヲ受領スルコトヲ期待シ得サリキ

独逸國ノ責任ヲ其支払能力ニ適用セシムルノ要アルコトハ其當時ニ於テスラ容認セラレタル所ナリ
千九百二十一年五月賠償委員會ニ依リテ賠償總額千三百二十億金貨麻克ト決定セラレタリ而シテ條約ニ依レハ委員會

ニ代表セラルル各国政府ノ特別ノ承認アル場合ヲ除クノ外
右債務ノ何レノ部分ヲモ免除スルコトヲ得サルナリ
故ニ若シ今日事情ノ変化ノ為ニ千九百二十一年ノ決定額大
ニ失シ減額ヲ必要トストノ論ヲナスモノアリトスルモ右減
額ハ唯条約ノ定ムル処ニ從ヒテノミ適當ニ之ヲ為スヲ得ヘ
ク又独逸国政府新提案中ノ第一要求即チ公平ナル国際審査
会ニ依リ独逸国現在ノ支払能力ヲ審査セシメントノ要求ヲ
連合国ニ於テ考量スルノ自由ハ唯此見解ノ範圍内ニ於テノ
ミ存スル次第ナリ

連合国政府ハ右要求ヲ其儘ニハ受諾スルコト能ハサルモ条
約ニ依リ委ネラレタル任務ニ付賠償委員会及公平ナル専門
家ノ努力ニヨリ援助ヲ得ルコト尠カラサルモノアルヲ認ム
ルコト勿論ニシテ条約ノ規定ニ抵触セサル限り此種審査カ
積極的ニ利益ヲ齎シ得ヘキコトヲ認ムルニ躊躇セス即チ該
審査ハ支払能力ヲ減少シタリテフ主張ヲ事実ニ就テ驗スル
ヲ得ヘク事態ノ現状ヲ明瞭ナラシムルコトヲ得ヘク又履行
回避ノ凡ユル口実ヲ除去スルヲ得ヘシ

連合国政府ハ独逸国政府ノ此種審査ヲ歡迎シ且其結果ヲ忍
容スヘキ旨ノ誓言ヲ了承ス

償委員会カ隨時独逸ノ資源及能力ヲ考慮スルノ權限ヲ有ス
ルトトモニ独逸国政府ヲシテ陳述ノ機會ヲ有セシムル義務
アルコトヲ記憶スヘシ之レ独逸国政府ト自由ニ協議ヲ為サ
ンカ為メニシテ斯クシテ独逸国政府ハ独逸国側ノ状況ヲ充
分ニ開示スルヲ得ヘシ

以上ハ独逸国ノ通牒ノ主要ナル提出条件ニ対スル連合国政
府ノ回答ナルカ茲ニ連合国政府カ上述諸問題ノ再開ヲ承諾
スヘキ先決条件トシテ慎重考量ヲ要スル一事アリ特定連合
国ノ兵力ニ依ルルル谿谷占領ノ結果独逸国政府ハ所謂
「消極的抵抗」ト汎稱シ得ヘキ熟慮ノ手段ヲ採ルニ至レリ
若シ独逸国政府ニシテ審査ノ再開ヲ望マントセハ此種ノ抵
抗ヲ組織助長スル命令ヲ遲滞ナク撤回シ且之ニ伴ヒ時ニ行
ハルル暴行怠業ヲ率直且明白ニ禁遏スルヲ可トスルコト連
合国政府ノ見解ナリ

遲滞ナク右ノ措置ニ出ルハ独逸国政府カ再度誓言シタル誠
意ノ証左トナルノミナラス引ヒテ占領国ヲシテ占領ノ状態
並ニルル産業生活ヲ漸次常態ニ復セシムル為メ再考セシ
ムルノ結果ヲ生スヘク從テ該地方ノ生産力ヲ復活シ独逸国
政府ヲシテ更ニ迅速且有効ニ其賠償債務ヲ履行スルヲ得セ

若シ斯ノ如クニシテ決定セラレタル義務全部ノ履行並全債
務ノ規則的且完全ナル支払ノ為ニスル保障担保ニ付拘束力
アル取極ヲ為スコトヲ得ハ賠償問題ハ其全部ニ亘リテ面目
ヲ一新スルニ至ルヘシ

担保保障ニ関シ連合国政府ハ独逸国政府カ五月二日付通牒
中ノ漠然タルニ代ヘテ更ニ一段ノ進境ヲ示サントスル努力
ハ多トスルモ此等新提議ヲ受諾スルニ當リ現在事態ノ要求
ニ適合スル様妥当且最善ノ方法ニ於テ之ヲ為ス為充分ノ注
意ヲ加フルヲ要ス此等担保保障ノ經濟的価値ハ麻克ノ安
定、独逸国予算ノ均衡等独逸通牒中ニ言及セラレサル事項
ニ繋ルコト大ナルモノアリ此等補助的保障タルヘキ事項ニ
付充分ナル審査ヲ為スコトハ連合国政府カ条約ノ範圍内ニ
於テ着手セントスル審査ト分離スルコトヲ得サル処ニシテ
独逸国ノ受諾スル債務ノ規則的履行ノ為ニスル保障ハ同時
ニ何等カノ形式ニ依ル独逸国財政ノ國際監督ニ関スル方法
ヲ定ムルニ非サレハ充分ナラサルヘシ此点ハ独逸国政府ノ
深甚ナル注意ヲ促ス必要アル処ニシテ此点ヲ決スルニ非サ
レハ最終的解決ハ決シテ之ヲ得ルコト能ハサルナリ又此等
一切ノ事項ニ付独逸国政府カ言論討議ヲ求ムルモ条約上賠

シムヘシ

独逸通牒ニ対シ本回答ヲ為スニ當リ連合国政府ハ欧州ニ於
ケル争鬭ノ中止及平和ヲ衷心ヨリ希望スルモノナルコトヲ
明瞭ニ示シタリ而シテ連合国ハ他方独逸国政府ニ対シ本政
策実行ニ協力センコトヲ招請スルノ權利ヲ有スルヲ信シ共
ニ切望スル結果ニ有効ニ寄与シ得ヘキ相互的措置ヲ現下ノ
事態ニ於テ与フ限リ精密ニ指示シタリ

八四 七月二十二日(着) 在英国外務大臣宛(電報)

独逸賠償新提案ニ対スル日本政府ノ回答ニツ

キ意見開陳ノ件

第四八六号

往電第四八三号乃至四八五号ニ関シ帝國政府ノ回答ハ可成
速ニ御電訓ヲ仰ギ度キ処此ノ際御参考迄ニ卑見ヲ述ブレバ
帝國政府ノ回答ニハ關係主要連合国ガ共同回答ヲ為スノ望
マシキ旨ヲ叙シタル上帝國政府ハ賠償問題ノ重要且其解決
ノ緊切ナルヲ深ク感ズル次第ナルト同時ニ右解決ノ内容如
何ノ係ル処ガ日本ヨリ遙ニ多キ主要連合国ノ上ニ在ルニ顧
ミ共同対独回答案ニシテ前回帝國政府ガ单独独逸政府ニ与

ヘタル回答ノ趣旨ニ反セザル範圍ニ於テ該欧州主要連合國ニ協定セラルルニ於テハ帝國政府ニ於テ之ニ参加スルニ異議ナキ旨ヲ簡明ニ申入ルルニ止ルコト最適当ナル様思量セラル尚英政府宛回答ハ可成英文ニテ御訓電ヲ請フ

八五 七月二十三日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル英國政府ノ対独共同回答案及び

連合國宛公文ニツキ主義上同意方然ルベキ旨

意見開陳ノ件

第四四九号

(七月二十四日接受)

只今(二十三日朝)接到シタル英國政府提議ニ係ル対独共同回答案及連合國宛公文ヲ通読スルニ右提議ハ新聞紙上予想シタル処ヨリ遙ニ調和的(独逸政府ノ passive resistance 撤回ヲ談判再開ノ前提条件トスルノ点特ニ然リトス)ニシテ帝國政府ハ之ニ対シ主義上同意シテ然ル可キモノト存ズ從來賠償委員会ニ於ケル日本委員ノ地位ハ甚ダシキ困難ナル立場ニ在ルノミナラズ帝國ノ面目ニモ關係スル場合往々アリタルモ「ベルサイユ」条約二三条ノ現存スル限り如何トモスル能ハザル実状ノ処今回英國提議ニ係ル独逸支払

能力及支払方法審査委員会成立ノ上ハ我委員ハ右二三条ノ拘束ヲ受ケズシテ他國委員ト全然対等ノ位置ニ活動スルコトヲ得ルコトナル可キガ故ニ日本ハ事實上有利ノ地位ニ置カル可シ由來仏國政府ノ主張ハ「ベルサイユ」条約ヲ嚴守シ賠償ニ関スル一切ノ事項ハ賠償委員会ヲシテ之ニ当ラシムルニ在ルヲ以テ条約上ヨリ言ヘバ素ヨリ正当ト言ハザルヲ得ザルモ右賠償ニ関スル条約ノ規定ハ特ニ日本ニ不利ナルヲ以テ英國政府ノ提案ハ我地位ノ改善ヲ計ルノ好機會ナリト思考ス尤モ去ル一月巴里會議ニ於ケル英國政府ノ提案ニ係ル審査委員会ニハ事實上日本ハ代表サレザルコトトナル可キ性質ノモノナリシニ付帝國政府ガ卑見ノ如ク今回ノ英國提議ニ対シ主義上ノ同意ヲ表スルトシテモ此ノ点ニ付必要ナル諒解ヲ取付ケ置クヲ要スト思考ス
其他ノ事項ニ付テハ追テ卑見稟申スル積リナルモ右不取敢御参考迄ニ申上グ
在欧州各大使ヘ転電セリ

八六 七月二十八日(着) 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル我對独回答ヲ速ニ決定ノ上回訓

方要請ノ件

第四九一号 至急

往電第四八六号ニ関シ

未ダ御回訓ニ接セザル処既ニ仏白間ニハ相当談合進ミ居ルモノノ如ク英政府ニ於テ近ク回答接到ノ場合殊ニ右回答ニシテ英國提議ニ対シ好意的ナルニ於テハ我回答之ヨリ後ル様ノ事アリテハ面白カラズト思考セラルルニ付成ル可ク速ニ廟議御決定ノ上何分ノ御回訓ニ接シタシ

八七 七月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

賠償ニ関スル我對独回答ハ確定ノ上回電スベ

キ旨通報ノ件

第二一五号

貴電第四九六号ニ関シ

帝國政府ニ於テハ大体英國提議ニ異議無キモ情報ニ依レハ仏白兩國政府カ提案ノ或ル点ニ付英國政府ニ説明ヲ求メントスルモノノ如ク事態未タ充分ニ具体化セスト認メララルニ付今少シク成行ヲ見タル上ニテ確定ノ回答ヲ發シタキ所存ナリ

確定回答ハ閣議決定ノ上追ッテ電報スヘキモ右貴官ノ御含迄不取敢

在歐各大使ニ転電アリ度シ

編註 本電ハ回訓ヲ受ケルノハ何時頃ニナルカラ問合ハセタモノデアル

八八 八月一日(着) 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル英國通牒ニ対スル仏國回答ノ内

容ニツキ報告ノ件

第四六一号

七月二十日ノ英國公文ニ対スル仏國回答ハ同三十日英國政府ニ交付セラレタル処其ノ内容ニ付謀報者カベンチヨリ聴取リタルモノトシテ係官ニ内報スル所ヲ綜合スルニ仏國回答ハ英國提議ノ対独協同回答案ノ対案ニ非シテ英國ノカバリングノ一トニ対スルリマークナルカ仏國ハルル占領ハ条約ニ基ク合法ノ措置ナルヲ以テ独逸ノ受動的抵抗ハ条約ノ違反ト見ルヘク独逸側ニテ先以テ右条約違反ノ行為ヲ無条件ニ停止(即チ抵抗ニ関スル中央政府ノ命令ヲ取消ス)スルニ非サレハ独逸ト交渉ヲ開始セス從テ英國提議ヲ

以テ交換条件ト為スコトニ応シ難シ仏首相カ数日前パッセニ内話シタル所ニテハルールの鉄道罷業ハ殆ト止ミ一万二千乃至五千ノ独逸鉄道従業員ハ既ニ復職シタル由ニテルールノ抵抗モ漸次終熄ニ近ツキツツアル由ナルモ仏首相ハ右事実上ノ抵抗停止ヲ以テ満足セス中央政府カ議会ヲ招集シ抵抗ニ関スル命令ヲ取消ス前ニ交渉ニ応スルハ蓋シ抵抗自体ヲ是認スルコトナリ從テ仏国側トシテハ其ノルール占領行動ヲ否認スル結果トナルヘシトノ体面論ヨリ飽迄無条件ノ抵抗停止ヲ主張シ居ル次第ナリト云フ又賠償支払ノ程度ニ応シルールヨリ漸次撤兵スヘシトノ從來ノ主張ヲ固執ス(但シ仏国ノ真意ハ支払力完了セストモ適當ナル程度ニ達スルトキハ全部撤退スヘシト云フニ在ル由)次ニ賠償委員會ハ独逸ノ支払能力ヲ査定シ独逸ニ対シ年金支払ノ延期ヲ許可スル権能ヲ有スルモ賠償総額ノ減殺ヲ認ムル権能ヲ有セス一九二一年ノ支払計画所定ノ賠償額ノ減殺ハ關係国全部ノ同意アルニ非サレハ許容シ難キモノナル処仏国トシテハ連合國債權ノ問題カ同時ニ解決セラルルニ非サレハ賠償総額ノ變更ニ応シ難シト為シ円滑ニ専門委員会設置ノ意見ヲ斥クルト共ニ英國カ仏国ヲシテ取立テントスル債權

賠償問題ニツキ仏国外務省ヨリ対英回答寫送

付越ノ件

別電 八月二日在仏国石井大使宛内田外務大臣宛電報第四四四号
右仏国政府ノ対英回答寫

第四六三号

(八月二日接受)

往電第四六一号末段ニ関シ八月一日仏国外務省ヨリ対英回答寫ヲ送付シ来レリ右回答ハ十五頁ニ亘ル長文ノモノナルガ其ノ要領別電第四六四号ノ通り

在英大使ヘ転電シ独、伊、白ヘ暗送セリ

(別電)

八月二日在仏国石井大使宛内田外務大臣宛電報第四六四号
右仏国政府ノ対英回答寫

第四六四号

(八月三日接受)

仏国回答要領

一、英國政府ハ独逸ノ受動的抵抗停止後仏国ノ執ルヘキ「ルール」占領ノ形式ニ付仏国政府カ今日迄英國ニ為シタル説明ニハ明確ナラサル嫌アリト為スト雖仏国政府ハ独逸側ニテ受動的抵抗ヲ全然停止スル晩ニハ担保(gage)ノ占有ト軍隊及技師ノ安全トニ反セサル限度ニ於テ占領ノ

ニ付説明ヲ求メ居レリ

次ニ白国対英回答ハ二十九日仏国側ニ内示セラレタルカ同回答ハ努メテ英國トノ乖離ヲ避ケントシ無条件抵抗停止並果進的撤退ニ付仏国回答ノ如キ法律論ヲ為サス単ニルール問題ニ付テハ仏国政府ト同意見ナリト謂フニ止マリ次テ專門委員會開催ニ賛成シ独逸ノ財政監督ヲ力説シ白国ノ受クヘキ賠償率ノ増加(結局スバ協定ヲ改訂シ白国ハ現在ヨリモ十億金馬克ノ増額ヲ望ム)ヲ主張シ居レリ
尚白国外相渡英ノ件ハ先週金曜白国首相外相ハ急ニ土曜ニ来巴ノ上ポアンカレト会见シ更ニ外相ハ渡英シ度キ意思アル旨ヲ申入レ来リタルモ仏首相ハ此ノ種白国側ノ運動ヲ喜ハス仏国側ノ意思ハ其ノ対英回答ニ充分尽シ居レリトテ白国側トノ会见ヲ拒絕シタル由ナリ尚三十一日館員ヲ外務省ニ遣シ対英回答ヲ單ニ參考トシテ貰ヒ受ケ度旨ヲ申込マシメタル処ベンチハ自分トシテハ差支無シト思フモ一応首相ニ問合セタル上其ノ許可アリタル節ハ当館ニ送付スヘシト答ヘタル由何レ入手ノ節ハ詳細報告スヘキモ右不取敢

八九 八月一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

形式ニ適當ナル變更ヲ加フヘク而シテ右形式カ如何ナル程度迄變更セラルヘキカハ高級司令官ト協議ノ上且独逸政府並地方人民ノ態度ニ依リ定マルヘキモノナルヲ以テ予メ詳細ニ立入りテ決定シ難シ「ルール」ヨリハ單純ナル guarantees ノミニテ撤退スルコトヲ得ス尤モ仏白両政府ハ独逸ノ現実ナル仕払ノ程度ニ応シ漸次撤退スヘク又如何ナル場合ニモ仕払ノ程度ニ準スル以外ニハ撤退セサルヘシ蓋シ右以外ノ措置ヲ執ル時ハ武府声明ヲ自ラ否認スルノ結果トナルベケレバナリ

二、「ルール」占領カ予期ノ効果ヲ挙げケストナス独逸国政府ノ見解ニハ服スル能ハス「ルール」占領ハ賠償総額ノ即時仕払ヲ目的トスルモノニ非ス担保ヲ押収シ独逸ノ政治經濟ニ圧迫ヲ加ヘテ条約ヲ履行セシメントスル手段ニ過キス馬克ノ暴落ハ独逸政府カ紙幣ヲ濫発シタルト独逸商工業者カ賠償仕払ニ依リテ受クヘキ損失ヲ免カレントスルトニ基クモノニシテ独逸ノ現況ハ其原因独逸自身ニアリテ「ルール」占領ニ基クモノニ非ス
独逸ノ受動的抵抗ハ条約ノ違反ナルヲ以テ無条件且無賠償ニテ停止セラルヘキモノトス独逸政府カ先以テ其停止

ヲ命令セサル限り仏白両政府ハ独逸トノ商議ニ応スルノ意思ナシ右ノ理由ニ依リ仏国政府ハ英國提議ノ如ク仕払能力ノ決定ト「ルール」ノ復旧ノ二点ヲ抵抗停止ト同時ニ実行スルコトニ同意シ難シ

三、英國側ハ一九二一年ノ支払計画カ独逸ノ現(況)ニ適合セスト為サハ今日定ムル処ガ十年十五年後ニハ又正確ナリト云ヒ得サルヘク一國ノ支払能力ハ固定的ノモノニ非サル上自ラ財政状態ノコン(脱)ヲ誘致シ通(貨)カ殆ント価値ヲ失ヘル独逸現在ノ支払能力ヲ終局のニ定メントスルカ如キハ極メテ imprudent ナリ若シ独逸ノ現況ニ鑑ミ支払猶予ヲ与フルコト必要ナルニ於テハ賠償委員會ヲシテ之ヲ許与セシムルコトヲ得ヘク一國ノ支払能力ハ固定的ノモノニ非サルヲ以テ対独条約ハ賠償委員會ノ独逸ノ財經状態ヲ査定シ時宜ニ依リ支払ノ対象ヲ變更シ延期ヲ為ス權能ヲ認メタル所以也然ルニ今ニ及ヒ之ヲ同委員會ヨリ奪ハントスル理由ヲ解スル能ハス

次ニ仏國ハ独逸ノ債務總額ヲ新ニ決定スルコトニ同意シ難シ蓋シ債務ノ一部免除ハ關係國全部ノ同意ヲ要スルモノナル処仏國トシテハ其戰時債務力輕減セラルル程度ニ

講ズベシ但仏國ハ受動的抵抗(脱)ラザレバ直接ニモ間接ニモ此点ニ関シ独逸政府ト商議ヲ開始スルコトヲ得ズ

第三及四、(英國公文結論第三、第四点) 専門家會議ノ組織ニ関シテハ仏國ハ前述ノ意見ヲ固執セント欲ス

賠償委員會ハ対独条約ニ依リテ設定セラレ之ニ依リ全權ヲ委任セラレタルモノニシテ正義公平及誠実ノ態度ノ下ニ行動ス

斯クノ如キ權限ヲ有シ且公平ナル保障ヲ与フル機關果シテ他ニ存スベキカ賠償委員會ノ決定ヲサヘ認メザル独逸政府ニ於テ果シテ他ノ機關ノ決定ヲ承諾スベキヤ否ヤ仏國政府ハ之等諸点ニ関シ明確ナル説明ヲ求メント欲ス

第五、英國政府ハ一般的財政ノ終局の解決ニ関スル完全ナル方法ヲ見出スガ為連合國間ニ商議ヲ開カンコトヲ求メタリ然レ共此終局の解決ハ既ニ存セルニアラズヤ賠償委員會ハ此方法ヲ輕減シ擴張シ又其利用ヲ短縮スル權限ヲ有スルニアラズヤ即チ既ニ決定セル支払計画ノ原則及賠償總額ヲ變更セントスルハ条約違反ニアラズヤ英國政府ノ所謂確定且一般支払計画トハ何ヲ意味スルモノナリヤ連合國債務モ亦此問題ノ中ニ包含セラルルモノナリヤ否ヤ

準スル以外ニハ之ニ応スルコト能ハス英國政府ハ支払能力査定ノ為 impartial experts ノ意見ヲ求メントスル処独逸提議ニハ更ニ「インターナショナル」ノ語ヲ付加シアリ其意ハ賠償委員會ニ反対セントスルニアルヘキモ英國案ニ拠レハ賠償委員會ノ此種專門委員ヲ付加セントスルモノノ如ク解セラルルカ右專門委員ト賠償委員會トノ關係及專門委員ノ意見ノ性質ハ如何ナルモノナリヤ專門委員選定ノ方法即チ同盟國又ハ連合國若クハ中立國ト云フカ如ク政府力選定スルモノナリヤ又ハ賠償委員會ニテ選定スルヤ何人カ其 impartialité ヲ定ムルヤ米國委員ノ参加ハ之ヲ認ムルトシ其外ノ何國ノ委員ヲ impartial ナリト云フカ右ノ諸点ニ付英國政府ノ意見ヲ承知シタシ之ヲ要スルニ英國公文結論六點ニ對スル仏國所見ヲ概説スルニ

第一、独逸政府ハ受動的抵抗政策ノ終局ヲ約スルコト本件ハ他ノ諸問題ニ先チ解決セラルベキ根本問題ナリ

第二、賠償支払ノ程度ニ応ズルニアラザレバ「ルール」ハ撤兵セザルベク占領軍司令官ハ担保ノ維持占領軍ノ安全ニ反セザル限り占領ノ範圍ヲ出来得ル限り減少スルノ措置ヲ

第六、英國ノ提議第六ニ關シテハ仏白兩國政府ハ独逸ヨリノ現実ナル支払ヲ受ケ且右支払ノ程度ニ比例スルニアラザレバ「ルール」ヲ放棄セザルノ意思ヲ反覆表明セント欲ス英國提議ノ結末ニ述ベタル security ノ問題ニ付テハ仏國ハ喜ンデ英國政府ト商議スベシ然レ共此問題ハ「ルール」占領トハ關係ナク各別ニ審議セラルベキ問題ナリト思料ス
在英大使ヘ転電シ、独、伊、白ヘ暗送セリ

九〇 八月二日(着) 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ關スル英國回答案ニ對シ我方ノ態度至急決定ノ上回訓方切望ノ件

第五〇六号

貴電第二一五号ニ關シ

仏白兩國ノ回答ガ既ニ英國政府ニ申入レラレタルハ往電第五〇一号ノ通り伊國大使亦口頭同政府ノ意見開陳済ノ趣ニテ事態ハ御来示ニ反シ十分具体化シ居ル所仏國ノ意見ハ別ニ電報スベキ通り英國案トノ間ニ甚ダシキ逕庭アリテ対独共同回答ノ実現容易ニアラズト觀測セラルル仏白回答ニ對スル英國政府ノ印象乃至所見ハ不取敢八月二日議會ニ於テ声

明ヲ見ル答ニシテ從テ本件ハ其發意ノ体様結果如何ハ未ダ予斷ヲ許サザルヲ以テ暫ク別トスベキモ兎モ角日本ヲ除ク關係國間ニ業ニ相當進行ヲ初メ居ル次第ニシテ一面何ト申スモ直接利害最少ナキニ拘ハラズ齊シク英國政府ノ提案ニ接シタル日本ガ却テ独リ傍觀ノ態度ヲ執リ恰モ逡巡為ス所ヲ知ラザルガ如キ觀ヲ呈シ次ニ進デハ帝國ガ勝手好キ時而已ハ主要連合國顔ヲ為シ直接利害少ナケレバ与國間ノ大問題殊ニ緊急処決ヲ最望マシトセラレツツアル此種案件ニ對シ独リ其意見ノ回示ヲ遲ラスト見倣サルルガ如キハ我ニ取リ甚ダ不得策ト信ズ就テハ速ニ廟議御決定ノ上至急御回訓アラシコトヲ切ニ希望ス

九一 八月三日(着) 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ關スル日本政府ノ回答ヲ英國政府ヨリ希望ノ件

第五一一号(至急)

八月二日中欧部長德川ノ來訪ヲ求メ同日議會ニ於テ政府ノ声明ニ引続キ既ニ文書ノ回答アリタル仏白兩政府ニ對シ成ルヘク速ニ英國提案及右回答ノ全文公表方ヲ提議スル手筈

仏、伊、白ヘ転電シ独ヘ暗送セリ

九二 八月三日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

賠償問題ニ關スル日本政府ノ意見口頭ニテ申入方訓令ノ件

第二二〇号(至急)

賠償問題ニ關スル七月二十日付英國提案ニ對シ仏白兩國ヨリハ既ニ夫々意見ノ開示アリタル趣ノ処本件ニ關シ仏白兩國ト英國トノ間ニハ尚ホ大ナル意見ノ杆格アリ英國提案ノ眼目タル連合國共同回答案ノ審議ニ達スル迄ニハ幾多ノ折衝ヲ要スヘキ見込ニ付キ政府トシテハ尚ホ未タ正式ニ回答ヲ發ス可キ時機ニ達セサルモノト認ムルモ累次御電票ノ次第モアルヲ以テ貴官ハ最近ノ機會ニ於テ責任國外務大臣ニ面會ノ上帝國政府ノ意見左ノ趣旨口頭ヲ以テ御申入相成様致度ク正式回答ハ適當ノ時機迄差控ヘ度キ考ナリ賠償問題カ欧州ノ安定惹イテハ世界ノ平和ニ重大ナル影響ヲ及ホス大問題ナルニ顧ミ本問題カ円満ナル解決ヲ見ルニ至ランコトハ帝國ノ最モ重キヲ措ク所ナリ

英國今回ノ提案ニ含マルル解決ノ諸方法ハ帝國政府ニ於テ

ナル処日本政府ヨリモ何等回答ヲ予期シ得ヘキヤ別段催促スル次第ニハ非サルモ該公表ノ時迄ニ日本政府ノ回答ニ接セハ之ヲモ併セテ公表シタク旁右手筈ノ次第ヲ予メ内話シ置クナリト云ヘルニ付德川ハ不取敢貴電第二一五号ノ次第並帝國政府ノ回答ニ關スル電訓接到次第遲滞ナク申入ルル考ニテ待構ヘ居ル旨ヲ内話シ尚万一仏國回答公表迄ニ帝國政府ノ回答ヲ送致スルコト能ハサル場合ニハ本使ヨリ不取敢ノ処置トシテ帝國政府ニ於テハ大体ニ於テ英國提案ニ異存ナキモ詳細ノ回答ハ後ヨリ電訓アルヘキ趣一応電報ニ接シタル旨ノ公文ヲ外務大臣ニ送付スルコトトシ右ヲ仏國ノ回答ト共ニ公表セラルルコトハ可能ナルヘキヤト本使ノ旨ヲ受ケタル訳ニハ非サル私見ナルコトヲ付加シテ問ヒ試ミタル処「ラムソン」ハ夫レニテ差支ナキ旨ヲ答ヘ右様公文ヲ先以テ送り越サルルニ於テハ之ヲ公表ノコトニ準備シ置キ公表ニ間ニ合フ様日本政府ノ回答ニ接セハ之ト摺リ換ヘ公表スヘシト答ヘタル趣ナリ就テハ尚更以テ帝國政府ノ回答至急御電示アリタク万一公表ニ間ニ合ハサル場合ヲ慮リ前述ノ如キ不取敢ノ公文ヲ送り置クヘキニ付右御含ミ置キヲ請フ

大体異議無キ所ナルモ帝國政府ノ有スル情報ニ依レハ英國提案ノ骨子ト仏白兩國ノ抱懷スル意向トノ間ニハ尚ホ相當ノ杆格アルモノノ如シ帝國政府ハ賠償問題ニ重大ノ關係ヲ有スル連合各國カ一層交譲妥協以テ本件ノ解決ニ付キ連合國一致ノ伝統的態度ニ出ツルニ至ランコトヲ切望スル次第ナリ

参考ノ為ニ在歐各大使ヘ転電アリ度シ

(欄外註記)

八月三日閣議決定

九三 八月三日 在ベルギー國安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ關スル對英回答ニツキベルギー國外相ト會談ノ件

別電 八月三日在ベルギー國安達大使宛内田外務大臣宛
電報第一六四号
賠償ニ關スル英國政府通牒ニ對スルベルギー政府
回答ノ要領報告ノ件

第一六三号 (八月五日接受)

三日朝外務大臣ニ面會シタルニ賠償問題ニ關スル白國政府ノ英國政府ニ對スル回答書寫ハ其節直ニ貴大使ニ内々送付

シ置キタル筈ナリシカ右文書ニ付御覽ノ通当国ノ態度ハ極メテ公正ナルモノナルニ付昨夜英國政府ヨリ之ヲ公表シテ差支ナキヤヲ問合来リタルニ際シ当國政府ハ素ヨリ其全文ヲ公表シタキ考ヘナルモ仏國政府ニ対スル義理合上今朝電話ヲ以テ「ポアンカレ」氏ノ同意ヲ確メ中ナリト云ヒタルニ付右文書ハ未タ入手セサル旨ヲ答ヘタル所同大臣ハ頗ル驚愕ノ体ニテ官房長ヲ呼ヒ事實ヲ確メ属僚ノ手落ナリシコトヲ知り深ク遺憾ノ意ヲ述ヘ右文書（別電第一六四号）ヲ手交シタル後日本政府ノ意見ヲ質ネタルニ付日本政府ニ於テ最モ慎重ナル考慮ヲ重ネツアルカ未タ何等ノ回答ヲ英國政府ニ与ヘサル旨ヲ答ヘタルニ同大臣ハ日本政府カ容易ニ回答ヲ發セサルハ日本ノ立場トシテ最モ諒解シ易キ事柄ナルモ事態ハ頗ル切迫セルニ付能ク白國ノ回答ヲモ研究セラレ以テ大ニ本件ノ解決ニ資セラレムコトヲ望ム旨ヲ述ヘタリ本使ハ日本政府ノ常ニ欧州惹テ世界ノ平和維持ニ眷々タル至情ヲ述ヘ其必スヤ充分ノ努力ヲ惜マサルヘキ旨ヲ答ヘ此際英仏間ノ rupture ヲ来スノ慮ナキヤト反問シタルニ英國首相ハ極メテ穩健ナル良識ニ富ミ話シ易キモ「カーゾン」卿ノ脊髄病ハ余程進ミ居ル為メニヤ寔ニ交渉ニ困難ナ

ニ対シテ有スル債權額ヲ更ニ減少セムトスルカ如キハ独リ正義並条約殊ニ第二百三十四条ニ反スル思想ナルヲ以テ工業の經濟的恢復上独逸ヲ連合國ヨリ有利ノ地位ニ置クモノニシテ連合國ノ安全上赦シ難シ

(二) 此故ニ独逸ニ債務減額ヲ許ストセハ之ニ相伴ヒテ戰爭損害ヲ蒙リタル連合國ニ対シ（一）連合國間債務ノ取消及（二）荒地ニ対スル優先權ノ尊重ヲ考慮セサルヘカラス而シテ白國ハ特ニ（二）ニ重キヲ置クカ故ニ対独条約及「スパ」協定以上更ニ単ニ其ノ一部賠償ニ満足セサルヘカラストセハ上述荒地ニ対シテハ特ニ有利ナル分配ヲ与フルコト正當ナリ

(三) 英國政府ニシテ右ノ見解ニ同意ナルニ於テハ白國政府ハ對独条約ノ許ス範圍内ニ於テ又賠償委員會ノ指揮ノ下ニ立ツ条件ヲ以テ專門委員會ヲ設置スルコトニ何等不可アルヲ見ス

(四) 英國政府ノ通牒ニハ「賠償額ハ独逸カ正當且實現シ得ヘキモノトシテ承服スヘキモノナラサルヘカラズ」トアル処右本專門委員會ニ諮詢シテ決定スヘキ条件ハ独逸カ此種ノモノトシテ容認セサルヲ得サルモノナルヲ要ストノ

ル上「ポアンカレ」ハ其一年有半ノ政策カ未タ寸功ヲ奏セサル為ニヤ其神經過敏ハ頃日来殊ニ甚タシク属僚モ落胆シ居ル位ナレハ白國政府ノ仲介役ハ至大ノ困難ニ遭遇シ居ル次第ナルモ決シテ失望セス兩國政府ニ対シ益々熱心ニ交渉ヲ繼續スヘキニ付 rupture ノ如キコトハ決シテ實現スルコトナカルヘシ尤他ノ一部ニ於テ独國ニ於ケル重大ナル政変モ時々刻々近ツキ来ル今日ナレハ此際主要連合國ハ之迄ニ倍スル注意ヲ以テ大局ノ推移ヲ監視スルヲ要スルハ勿論ナリト語レリ何等御參考迄在欧各大使ヘ転電セリ

（別電）

八月三日在白國安達大使發内田外務大臣宛電報第一六四号

賠償ニ関スル英國政府通牒ニ対スルベルギー政府回答ノ要領報告ノ件

第一六四号

（八月五日接受）

英國政府通牒ニ対スル白國政府回答（七頁）ノ要領左ノ通（一）英國政府ハ賠償問題解決ノ要件トシテ独逸ノ支払能力ヲ考量スヘキコトヲ主張スルモ公正ノ觀念ハ先ツ債權國タル連合國ノ財政能力ヲ酌量スヘキコトヲ要求ス戰爭荒廢地恢復ノ為内外債務ノ重荷ニ苦ミツツアル連合國カ独逸

意味ナリト信ス蓋シ既往常ニ其ノ義務ヲ免カレントシタル独逸ノ明示的承認ヲ求ムルモ効ナキコトナレハナリ

(五) 白國政府ハ英國政府カ原則トシテ該謝罪の保障ノ取得ニ同意シタルコトヲ喜ブ

(六) 白國政府ハ今尚「ルール」占領ニ関スル三月十二日「ブ」府会合ノ宣言ヲ遵守スルモノナリ依テ独逸カ其ノ支払義務ヲ自認シ「ルール」地方ニ於ケル抵抗ヲ完全ニ中止スルトキハ仏國政府ト共ニ本占領ノ軍事の性質ヲ漸次失ハシメ且一月十日独逸政府ニ対シテ為シタル通告中ニ指示セル措置ヲ執ルニ止ムヘシ而シテ白國政府ハ抵抗停止後ハ右占領ヲ右地方ノ經濟的生活ヲ害セサルモノト為スニ努ムルノ意向ナリ

(七) 白國政府ハ英國政府カ右抵抗停止ヲ勸告シタルニ付満足ス

(八) 白國政府ハ独逸ノ財政監督ヲ特ニ重要ナリト思惟ス監督ナクバ「モラトリウム」ハ其ノ意味ヲ為ササルヘシ

(九) 白國政府ハ六月七日ノ独逸回答ニ対シ共同回答ヲ發スルコトヲ熱望ス

(十) 尚白國政府ハ英國政府ガ Sécurité ノ問題ニ付宣言ヲ為セ

ルニ対シ感謝ノ意ヲ表シ且此ノ問題ニ付後日更ニ同政府ニ対シ通告スル所アラントス

在欧州各大使へ転電セリ

九四 八月四日(着) 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル日本政府ノ希望ニツキ英國政府

ヨリ回答ノ件

別電 在英國林大使宛内田外務大臣宛八月四日着電報第

五一四号

英國政府ノ見解ニ同意ノ内意カーゾン外相ニ通報
ノ件

第五一二号

往電第五一二号末段ニ関シ三日付ニテ別電第五一四号書面「カーゾン」卿ニ送付セリ尚発表セラレタル所ニ依レバ伊國政府ハ二日午後英國ニ対シ書面回答ヲ為シタル由ナリ
右欧州各大使へ転電セリ

(別電)

在英國林大使宛内田外務大臣宛八月四日着電報第五一四号
英國政府ノ見解ニ同意ノ内意カーゾン外相ニ通報ノ件

九五 八月四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル対英回答ニツキ意見稟申ノ件

第四七二号

(八月五日接受)

去ル二日英國議會ニ於ケル対独問題ニ関スル政府ノ声明ハ一般國民ニ失望ヲ以テ迎ラレタル一方翌日仏國政府カ発表シタル対英回答全文ハ健康正確トシテ仏國官民ニ歡迎セラ
ル尙当地発刊米國新聞ハ「ポアンカレ」氏カ英國政府ニ於テ英仏協調決裂ノ断行力ナシト見縊リ強硬ノ態度ヲ一步モ枉ケサリシニ果然英國政府ノ声明ハ仏國回答ヲ遺憾トシナカラ今後協調継続ニ努力スヘントアルヲ指摘シテ仏國外交大捷利ナリト喝破ス斯テ仏國ハ益々強硬態度ヲ維持スヘク今後ノ發展ハ容易ニ逆睹シ難シ帝國政府ハ明確ナル対英回答ヲ暫ク俟タルル御趣旨ノ由ナルカ仏白伊トモ対英回答済
ノ今日我政府カ右回答ヲ為スノ時機已ニ到来セリト思ハル所謂公平ナル専門委員會ノ組織ニ付往電第四四九号卑見ノ希望ヲ開陳スルハ今日好機ナリト思考ス(仏白回答何レモ此点ニ付質問シツツアリ)依テ右委員會ニ関シ白国ハ勿論
仏國モ亦組織及権限如何ニヨリテハ之カ新設ヲ承諾スヘキ

第五一号

My Lord:

With reference to Your Lordship's note of July 20th last, setting forth the views of your Government on the proposals of the German Government, June 7th last, for settling the problem of reparations and also endorsing therewith a draft identic reply to the German Government based on those views, I have the honour to state that, having telegraphed the contents of those two documents to my Government, I have received from them a telegram which foreshadows their agreement in principle to the proposals of your Government. While, therefore, I shall have the honour to communicate to your Lordship the full text of my Government's reply as soon as I am in receipt of instructions embodying it, it may not seem superfluous at this moment to bring the above information to your knowledge.

I have etc.

Hayashi

在欧各大使へ転電セリ

ハ略々察知セラルル所ナリ但シ委員會新設ノ目的カ独逸ノ

債務削減ニアルコト勿論ナレハ右削減ノ対象タルヘキ同盟
國間債務ニ関スル英政府ノ保障ヲ前提条件トスルハ仏伊白
ノ異口同音ニ主張スル所ナリ独リ我日本ハ之等条件ナクシ
テ主義上ノ同意ヲ表シ差支ナキ地位ニアリ唯我政府トシテ
今ヨリ注意シ置クヘキハ所謂同盟國間債務整理問題ヲ日本
ニ適用セシメサル点ニアルヘシ此点ニ付昨年本使カ「ゼノ
ア」ニ於テ森全權ノ説ヲ求メタルニ対シ同氏ノ言ニ依レハ
右ハ心配ナシトノコトナリシモ同シク同盟國間ノ戦争債務
タル以上独リ日本ノ分ノミ除外スヘキ理由ヲ見出スハ困難
ナルヘク本使ハ此点ニ付近頃漸次心配ノ度ヲ増シ来レリ若
シ此点ニ付安心スヘキ強キ理由ナシトセハ我政府ハ委員會
設置ヲ議スルニ際シ明確ナル留保ヲ為スヲ要スヘシ御詮議
ノ上何分ノ御訓示ヲ請フ
在欧各大使へ転電セリ

九六 八月十三日(着) 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

十一日付仏、白大使宛カーゾン英國外相ノ賠
償ニ関スル書翰ノ大要報告ノ件

第五四二号

十一日付在當地白大使宛同文ノ「カーゾン」卿書翰ハ五十五頁ニ亘ル頗ル長文ニシテ冒頭七月三十日付白回答ニ頗ル失望セルコト、今回ノ英國回答ノ必要、白ニ対シ同文書翰ヲ以テスル理由ヲ叙シ白ノ回答カ独逸覺書ニ対スル英國起草同文回答案ニ言及セサルコトヲ詰リ次テ左ノ諸点ニ付大要左ノ通り記述

(一) 白ノ要求額ノ問題

白国政府ハ独逸支払能力調査ノ提議ヲ白国ノ如ク絶対的ニ排斥セサルモ其同意ハ白カ金錢上ノ利益ヲ得ルコトヲ条件トセルカ独逸ヨリ其支払ヒ得サル額ヲ要求スルモ無益ナリ其支払ヒ得ル最大限如何ハ債権者ニ執リ最モ肝要ナルモノナリ之ハ事實確立問題ニシテ英國政府ノ提議スル処モ此事實ヲ確立セントスルニアリ之ニ対シテ白カ力之ニ対応スル利益ヲ得ルニアラサレハ同意シ得スト答フ、英國政府ハ斯ノ如キコトニ同意スルヲ得ス公式並非公式ニ發表セラレタル処ニ依レハ白英、米ニ対スル其債務ヲ充ス額ニ加フルニ更ニ最小限度トシテ二六「ミリヤド」金馬克ヲ白ハ又最小限度五「ミリヤド」ヲ要求シ白ハ右額又ハ其一部ニ対

シ更ニ優先権ヲ要求ス然ルニ白国予算ノ報告者タリシ「ボカノウスキュー」ノ計算ノ基礎ヲ五分トシテ考慮スレハ「スパ」協定ノ下ニ於ケル白ノ取分ハ三三「ミリヤド」白五「ミリヤド」ヲ超エス而シテ白ハ同協定ニ依ル優先権ニ依リ既ニ一「ミリヤド」余ヲ受領シ且約三億磅ニ達スル連合國ニ対スル戰時債務ヲ免除セラレタリ次ニ白ハ英ニ対シ十二「ミリヤド」米ニ対シ十五「ミリヤド」ノ債務ヲ有シ之ヲ差引ケハ余ス処ハ七「ミリヤド」ニ過キス然ルニ今二十六「ミリヤド」ヲ独逸ヨリ得ントスルハ「スパ」協定所定ノ三倍乃至四倍ヲ要求スルモノナリ次ニ荒廢地復旧ニ対シテ特別ノ優先権ヲ与フヘントノ主張ハ戰時敵ノ加ヘタル損害ニ人爲的差別ヲ設ケントスルモノニシテ独リ物質的損害ヲ他ノ損害ヨリ優先セシメントスルモノナルノミナラス物質的損害中土地ニ対スル損害ニ優先権ヲ与ヘントスルモノニテ條約ニ何等根拠ナキモノナリ而シテ右優先権ノ主張ハ「スパ」協定ノ率ヲ白ノ利益ニ變更セントスルニ同シ蓋シ荒廢地ニ關スル白ノ要求ハ他國ニ先立チ充タサルト共ニ独逸ヨリ取り得ル額ノ減少ハ優先権ナキ國ノ損失トナルコトナレハナリ英國ハ戰爭ノ結果重大ナ

ル物質的損害ヲ受ケタル外失職者ノ為ニ休戰以來四億磅、對米債務十億磅ニ対スル利子ノ支払及ヒ連合國ノ利益ノ為ニ七億乃至八億磅ニ達スル外國証券ヲ喪失セルト共ニ去ル一月其戰時損害ニ対スル賠償権ヲ拋棄シ連合國ニ対シテ有スル債権ヲ減少シタル上独逸ヨリ得ル賠償支払ヲ連合國ヨリ英國ニ対スル債務ノ支払トシテ取扱フヘキコトヲ提議セリ斯ノ如キヲ以テ之以上ニ更ニ白ノ利益ノ為ニ「スパ」協定ノ率ニ變更ヲ加ヘ納稅者ノ負担ヲ増加スル能ハス

(二) 独逸支払能力調査問題

「ポアンカレ」ノ主張スル百三十二「ミリヤド」金貨馬克ニ關スル賠償委員會ノ決定ハ単ニ平和條約上賠償ヲ求メ得ヘキ損害ノ見積ニ過キスシテ独逸ノ支払能力額ニアラス支払計画ハ平和條約所定以上ニ支払期限ヲ延長シ且独逸ノ債務ノ大部分ニ対シ長期間利子支払ヲ免除ス白国予算案報告者ノ意見ニテハ右百三十二「ミリヤド」ヲ半減シタルト同様ナリトコトナリ右支払計画カ連合國首相ニ依リ承認セラレタル事實ハ百三十二「ミリヤド」カ何人ニ依リテモ高キニ過クト思考セラレサリシトノ主張ニ対スル有力ナル回答ナリ又平和會議ノ際米専門委員カ独逸ノ支払能力ヲ

百二十「ミリヤド」ニ見積リタリトコトハ英國政府ノ有スル記錄上發見シ得ストシ次テ公平ナル専門家ノ独逸支払能力ノ調査ハ平和條約ノ原則ヲ侵犯スルモノニアラサルコトヲ述ヘ賠償委員會自身カ必要ナル調査ヲナス資格アリトノ白ノ主張ニ対シテ同委員會ハ米國委員不参加ノ結果白議長ノ「カスチングヴォート」ニ依リ全然白政策ノ傀儡ニ化シタルコトヲ指摘シ次テ右専門家委員會ハ賠償ニ權利ヲ有スル諸國、大戰爭ニ参加セサリシ諸國及ヒ独逸ノ代表者ヲ以テ構成スルヲ可トスルト共ニ白國ニシテ其構成ニ異議アラハ之ヲ考慮スルヲ辭セストナシ其賠償委員會及ヒ連合國政府トノ關係ニ付テハ英國政府トシテハ其決定ヲ受諾スヘキコトヲ賠償委員會ニ勸告スヘキコトニ付各連合國政府ニ於テ予メ取極ヲ為スコトヲ欲スルモ白政府之ニ賛成セサレハ其職責ヲ單ニ「アドバイザー」ノモノトナスヲ以テ満足スヘシトナス

(三) 「ルール」問題

消極的抵抗ハ條約違反ナリトノ議論ニハ同意シ得ス白ハ右占領ハ賠償條項第二付屬書十八ニ基クモノトナスモ独ハ常ニ此ヲ争ヒ英國法律家亦独ノ主張根拠アリトナス英國政

府ハ右占領ノ条約所定ノ制裁ニアラストノ見解ヲ秘シタルコトナシ併シ条約ノ重要ナル条項ノ法律的解釈ニ関スル争ニシテ賠償委員会ノ一致ノ協定ニ達スル能ハサルモノハ当然海牙国際司法裁判所若クハ他ノ適當ナル仲裁機関ノ議ニ付スルニ異議ナシ英國カ從前二回右ノ如キ占領ヲ為スヘシト威嚇セル最後通牒ニ加ハリ又一九二〇年「デュッセルドルフ」外一、二ノ占領ニ加入シタル事實ハ賠償条項ニ依ルモノナルコトヲ曾テ主張シタルコトナク単ニ独逸ノ条約違反ニ対シ更ニ同地占領ヲ以テ威嚇セルニ止マルモノナルニ顧ミ何等「ルール」占領ノ適法ヲ否認スルト矛盾セストシ軍事占領ハ条約第十四編ニ依ルヘシトナシ又第四百三十条ヲ引用シテ第八編第二付屬書十八ニ依リ或場合ニ軍事占領ノ權アリトノ主張ヲ駁シ英國カ「ルール」占領ニ加入シ居タラハ消極的抵抗ヲ見サリシナルヘク多額ノ賠償支払ヲモ見タルナルヘシトノ仏白ノ主張ニ対シテハ右占領ノ適法及ヒ実行ニ関シ有シタル見解上英國政府ハ之ニ加入シ得サリシコト及ヒ加入シ居タリトシ且消極的抵抗無カリシモノトスルモ右ノ結果賠償關係ノ解決ヲ近カラシメ得タルヤハ疑問ナリトシ次テ仏政府ハ今ヤ「ルール」占領ハ賠償支払ヲ

四 聯合國間債務問題

本問題ニ関シテハ別ニ覺書ヲ作製セリ（別電第五四三號參照）英國政府ハ英帝国内ノ他ノ部分ノ正當ナル要求ヲ除キ連合國及ヒ独逸ヨリノ支払ヲ受クル額ハ合計一四「ミリヤド」二金貨馬克ニ限局スヘシ右ハ最近書換タル英國ノ對米債務ノ現在額ナリ英國カ連合國間ノ債務ニ付讓歩シ得ル程度ハ主トシテ右一四「ミリヤド」二ノ内独逸ヨリ取得シ得ル額如何ニ係ル從テ一般的賠償解決ニ付合意成立シテ初メテ連合國間ノ債務ニ付テノ讓歩ヲ實質的形ニテ行ヒ得ルモノナリ此目的一ニ達スル第一歩トシテ連合國カ独逸ヨリ取得シ得ト合理的ニ希望シ得ル最大額ヲ定メ且独逸ノ財政及ヒ信用ヲ鞏固ナル基礎ノ下ニ立直シ、並監視制度ノ下ニ独逸ノ債務ノ規則正シキ支払ヲ保証スル取極ヲ為スノ要アリ

(四) 以上所説ノ要略

(イ) 英國政府ハ独逸ヲシテ總テノ賠償支払ヲ免レシムヘシト思考シタルコトナク独逸ヲシテ其能力ノ最大限度迄賠償ノ支払ヲナサシムヘシトノ決心ヲ有ス
(ロ) 独逸ノ支払能力ノ最大限度ハ不偏不党ノ調査ニ依リ之ヲ決定スヘシ独逸債權者カ受領ヲ欲スル額ニ依リ之ヲ定ムヘ

急速若クハ完全ニ行ナハシムル為ニアラスシテ独逸ノ抵抗ヲ挫キ支払ノ意思ヲ生セシムル為ナリト主張スルモ支払ノ意思アルモ支払ノ力無ケレハ無益ナリ而シテ独逸ノ支払ノ力ハ独逸産業ノ樞軸占領ノ継続ニ依リ益々減少シ遂ニハ消滅ストナシタル後「ルール」占領ト一八七一年ノ独逸ノ仏諸國占領トノ比較ノ当ラサルコトヲ指摘シ仏白カ消極的抵抗停止ノ目的ヲ達シタル場合ニ占領ノ終結ヲナスヘシトノ希望ヲ与フル何等具体的ノ表示ヲナササルコトニ言及シ仏白カ独逸ノ支払ト比例スル以外ニ撤退ニ付テ議論シ得スト声明セルハ即チ独逸カ全賠償責任ヲ完済スルニアラサレハ完全ニ撤退セサルノ意ト解スルノ外ナク右ニ関スル再三ノ声明並一三二「ミリヤド」固執ニ顧ミル時ハ「ルール」占領ハ尠クトモ五十六年間継続スルノ意ト見ルヘク支払計画ノ完全ナル履行ハ如何ナル事態ノ下ニ於テモ不可能ト一般ニ考ヘラルルニ照シ右占領ハ無限ニ継続スルニ至ルヘシ斯ノ如キ事態ハ英國政府ニ於テ重大痛事トナササルヲ得ス之連盟規約第十一条ノ所謂國際ノ平和又ハ其基礎タル各國間ノ良好ナル諒解ヲ攪乱セントスル惧アル如キ國際關係ノ危険ヲ導クモノナリ

カラス独逸ノ支払能力ノ最大限度以上ノ要求ハ賠償ノ實際ノ取立ニ資スル処ナシ

(ハ) 独逸ハ財政ノ復旧及ヒ通貨ノ安定ニ依リ予算上余剰ヲ生スルニ依リ初メテ實質的支払ヲナスヲ得ヘシ而シテ右ノ余剰タルヤ外國為替狀態ノ該支払ニ充ツルコトヲ得ルカ如キ形ノモノナラサルヘカラス對外支払ハ価額下落セル馬克紙幣ニテハ之ヲ行フヲ得ス英國ノ見解ニテハ独逸ノ經濟生活ニ對スル強力的干涉ハ賠償ニ充ツヘキ余剰ノ生スルコトヲ妨クルモノナルノミナラス独逸ノ財政及ヒ通貨ノ混乱ヲ増大シ貿易ニ重大ナル反動ヲ与フ

(ニ) 此故ニ英國政府ハ仏白ノ執レル方法ハ賠償ヲ得ルノ手段トシテハ失敗ニ歸スヘシト思考ス仏白ノ「ルール」占領ハ非常ナル費用及ヒ前年ヨリ少キ収入（特ニ石炭及「コークス」ニ就テ）ヲ見タリ加之其結果トシテ世界ノ貿易ニ大ナル危険ヲ及ホス

(ロ) 賠償ニ充當セラルル独逸財産ノ實価ヲ確定シ更ニ価値ノ下落ヲ来サシムルコトナク之ヲ實現スル手段ヲ執ラルルニ於テハ事情ノ許ス限り各國ノ債務支払能力ニ從ヒ連合國ニ對スル英國ノ債權ニ関シ寛大ナル取扱ヲナスヘキモ戰時中

及ヒ戦後英米國ノ受ケタル物質的損害及其貿易上ニ於ケル将来ノ重キ負担ニ顧ミ他ノ小國ニ於テ既定ノ賠償受領ノ率又ハ其順位ヲ更ニ変更セントノ要求ヲ認ムルヲ得ス、併シ英國ハ其對米戰時債務ヲ充スニ足ル以上ノ額ヲ對連合國債權並對独賠償ニ関シ要求セサルヘシ
在歐各大使へ郵報セリ

九七 八月二十二日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スルカーゾン英國外相ノノートニ對

シ仏國回答ノ要点報告ノ件

第四九〇号 (八月二十三日接受)

十一日付「カーゾン」卿「ノート」ニ對スル仏國回答二十一日当地英國大使館ニ交付セラレ今二十二日發表アリタルガ右回答ハ結論トシテ荒廢地復興ノ為ニスル賠償ヲ先ヅ議シ其他ハ後日賠償委員會ニテ議スルコト連合國債務モ其際議センコトヲ提議セリ不取敢
在歐各大使へ郵送セリ

九八 八月二十三日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

スルモノニアラザルモ連合國民ノ生命財産ノ賠償タル独逸ノ債務ト戰費支弁ノ為ニセル連合國債務トハ性質ヲ異ニス仏國ハ先ヅ其國土内ニ於テ被リタル損害ノ賠償ヲ受ケザルベカラズ其後ニ至リテ独逸ヨリ受クベキ賠償金ヲ以テ連合國ニ對スル債務ヲ支払ハムトスト言明ス
四、独逸ノ支払能力ニ關シテハ抑々一國ノ支払能力ナルモノハ時ニ依リ変化アリ條約ハ之ヲ予見シテ賠償委員會ヲシテ時々調査セシムルコトヲ規定セリ然ルニ英國案ハ独逸ガ故意ニ其支払能力ヲ皆無ナラシメタル今日之ヲ國際委員會ヲシテ確定的ニ決定セシメムトスルモノニシテ不合理ナルハ勿論独逸ニ乗ゼラルル点アリ独逸ノ潰滅ガ歐洲ニトリ悲惨事タルハ固ヨリナリト雖仏國ノ潰滅亦同様ノ不幸タルノミナラズ一層正義ニ悖ルモノナラズヤ又英國ハ賠償委員會ニ於テ米國不参加ノ為仏白ノ勢力増大シ均衡ヲ失ヘリト言フモ其ノ六割ニ与カル仏白ニ優越ナル地位ヲ同委員會ニ占ムルハ当然ナリ

五、結論ニ曰ク

(イ)本回答ハ英國ノ通牒ガ公表セラレタル為已ムヲ得ズ之ヲ公表シタルモ将来ノ商議ニハ一層慎重ナル方法ヲ執

賠償ニ関スルカーゾン英國外相ノノートニ對
シ仏國政府ノ回答要領報告ノ件

第四九二号 (八月二十四—二十五日接受)

往電第四九〇号仏國回答ハ頗ル長文ニシテ英國ノ主張ヲ一々鋭キ論鋒ヲ以テ反駁シ且別ニ十一日付「カーゾン」ノ「」ヲ個条毎ニ反駁セル文書ヲ添付セリ然レドモ要スルニ何等新ナル協定ノ地歩ヲ供シ得トスベキモノナク唯從來ノ主張ヲ詳細ニ且強硬ニ弁護シタルニ過ギズ要点左ノ如シ

一、賠償問題当初ヨリノ來歴ヲ叙シ「ルール」占領ニ及ビ條約第二付屬書第十七及十八項並數次ノ最高會議ニ於ケル宣言等ヲ引用シテ英國ノ「ルール」占領條約違反説ヲ反駁ス

二、「ルール」撤兵ノ時期ニ關シテハ從來通り独逸ノ支払ニ比例シテノミ之ヲ実行スベキ旨又独逸ノ消極的抵抗停止ヲ以テ協議再開ノ条件トスル旨及右停止ノ曉占領ハ自然軍事の性質大イニ減少スベキ旨ヲ繰返シ宣明ス

三、賠償額及連合國債務ニ關シテハa b 証券ニ於テ二百六十億c 証券ニ於テ連合國債務支払ニ要スル丈ケノ額ノ要求ヲ維持シ又連合國債務ニ關シテハ仏國ハ其支払ヲ拒否

ルコトト致シタシ

(d)賠償委員會ヲ維持スルノミナラズ之ヲ更ニ有力ナル機關ト為シタシ

(ハ)独逸ノ財政改革ニ必要ナル期間中ト雖賠償委員會ガ可能ト認ムル金錢及実物ノ賠償ヲ繼續シ且現ニ連合國ノ為保有スル担保ヲ手離サザルコト

(ニ)連合國債務ニ關シ仏國ノ態度ハ上述ノ如ク加之本件ニ關シテハ債權國ノ一タル米國ノ同意ヲ必要トス

(ホ)往電第四九〇号ノ提議ヲ為シ英國ト雖仏國ガ其損害ノ賠償ヲ受ケ經濟力ヲ回復スルニ先立チ之ニ對シ債權ノ取立ヲ行ハムトスルモノニアラザルベシト信ズト付言ス

六、Securityノ問題ニ關シテハ仏國ハ何時ニテモ本件ニ就キ英國ト協議セムコトヲ欲スルモ右ハ「ルール」問題トハ全然切離シテ考慮セザルベカラザルコトヲ切言ス

在歐各大使へ郵報セリ

九九 八月二十七日 在ベルギー國安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償ニ関スル英国ノートニ対シベルギー国回

答を送付越ノ件

別電

八月二十七日在ベルギー国安達大使発内田外務電
大臣宛報第一八六号

英国ノートニ対スルベルギー国回答要領

第一八五号

(八月二十八日接受)

白国外務大臣ハ二十七日朝十時英国「ノート」ニ対スル白
国回答ヲ当地駐劄英国大使ニ交付スルト同時ニ写一通内々
本使ニ送付シ来レリ要領別電第一八六号ノ通り
在欧各大使及寿府へ転電セリ

(別電)

八月二十七日在ベルギー国安達大使発内田外務大臣宛報第
一八六号

英国ノートニ対スルベルギー国回答要領

第一八六号

(八月二十八日接受)

白国回答要領

(甲) 英国覚書ニ対スル意見

本章ノ下ニ回答ハ(一)対独協同回答ニ関スル件(二)白国提案ノ
範圍(三)「ルール」占領ノ適法(四)消極的抵抗停止ノ後「ルー
ル」ニ適用スベキ制度及占領期限(五)白国優先権(六)独逸ヨリ

ハ賠償ノ時機ニ関スルモノニ過キサレハ独逸ノ支払減少ス
ルニ從ヒ白国ノ利益増大ストノ英国ノ意見ハ誤謬ナリトシ
(六)英国「ノート」ハ白国ハ今日迄ニ其ノ有スル額ノ四分ノ
三ヲ受領シ居レリト謂ヘル処賠償委員会ニ從ヘハ独逸カ今
迄ニ賠償若クハ占領軍費、石炭前払償還ノ名義ヲ以テ支払
タルハ五十五億ニシテ白国ノ受ケタル十七億二千九百万ハ
其ノ三分ノ一ニ過キス

(乙) 七月三十日付白国「ノート」(往電第一六四号)ニ
対スル補足

(一) 戦時債権ニ関連シテセ証券ノ全部若クハ一部ヲ廃棄ス
ル場合ニ於テハ賠償分配率ハ之ヲ改定スルノ要アリトノ白
国ノ主張ハ「スパ」協定ト一九二一年分ノ支払計画トハ相
関的ノモノナルノ事実ニ基ク從テ一方ノ改定ハ他方ノ改定
ヲ要ス然ラサレハ戦時債権ヲ有セサル白国ハ何等ノ対価ナ
クシテセ証券ノ廃棄ニ同意セサルヲ得サルニ至ルヘシ
(二) 白国政府ハ荒地ニ関スル優先権ヲ主張シタルカ此ハ
英国ノ謂フカ如ク一部ノ国ニ之ヲ与フルノ意ニアラスシテ

受領シタルモノノ六節ニ分カチ論ジ居レリ(英国ノ提案ニ
係ル専門家會議ニ関シテハ何等言及スル処無キハ此際右ノ
如キ機關ヲ設クル事ナク各連合國ノ直接ノ意見交換ニ依リ
テ本件ヲ解決セントスルノ底意ナリト解セラル)就中主要
ナルモノヲ摘記セバ(一)ニ付テハ「ルール」占領ハ「スパ」
會議以来曾テ問題トナルガ如キ事ナカリシ事ヲ述ベ(二)ニ付
テハ「ルール」占領ノ当初ニ於テ白国政府ハ毫モ軍政ヲ之
ニ実施スルガ如キ意思無カリシニ拘ハラズ抵抗ノ結果強制
手段ノ已ム無キニ至リタルモノニシテ抵抗ノ止ム時ハ仏、
白共ニ一月十日前ノ地位ヲ確保スルノ措置ニ出ズベシト尚
其ノ期間ニ付テハ独逸ノ賠償(償)履行ノ程度ニ応ズベク要
ハ独逸ヲシテ支払ニ意思ヲ生ゼシムルニ在リトセリ

(三)ニ付テハ英国「ノート」カ白国ハ優先権ヲ有シ且其ノ戰
時債務ヲ免除セラレ居リ一般連合國ニ比シ遙ニ有利ノ地位
ニ在ルニ拘ラス其ノ要求スル処敵ニ過クト為セルニ対シ右
優先権ヲ承認シタル一九一九年四月ノ英仏米三国首相會議
以来ノ事情ヲ述ヘ其ノ後白国ハ連合國一般ノ利益ノ為ニ
「スパ」會議以来屢其ノ優先権ノ上ニ讓歩ヲ為シタルニ拘
ラス独逸ノ形勢悪化ノ為其ノ實際僅少ノモノナリ且優先権

物的損害ニ優先権ヲ与ヘントスルニ外ナラス

結論 白国政府ハ既往數週間ノ商議ニ依リテ左記ノ点ニ付
各國ノ一致ヲ見タルコトヲ認ム

(一)賠償問題ト連合國間債務問題トハ分離スヘカラサルモノ
ナルコト

(二)一九二一年五月ノ支払計画ニ定メタル独逸ノ債務ハ減額
セラルヘキコト

(三)独逸ノ貨幣制度安定ノ為連合國カ其ノ財政監督ヲ為スノ
要アルコト

依テ白国政府ハ各連合國政府ニ於テハ今後ハ大臣間ノ直接
交渉ニ移ルヘキコトヲ認ム

「セキュリティー」

本件ハ現ニ係争中ノ問題ノ解決ニ資スルコト大ナルヘキヲ
以テ英国政府ト本問題ヲ議セシコトヲ望ム
在欧州各大使及「ゼネバ」へ転電セリ